

令和 4 年度

竹田市教育行政に関する点検評価 報告書
(令和 3 年度対象)



令和 4 年 9 月

竹田市教育委員会

報 告 書

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定に基づき、令和 3 年度に竹田市教育委員会が取り組んだ教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検・評価を行い、その結果を取りまとめたものです。

また、この点検・評価による P D C A サイクルの活用は、教育行政の効果的推進に大いに資するものです。

令和 4 年 9 月 6 日

竹田市教育委員会
教育長 志賀 哲哉

◇ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

報告書	1
目次	2

《点検・評価の概要》

1 点検及び評価の実施方針について	4
2 点検・評価の対象及び期間	4
3 点検・評価の方法	4
4 点検・評価の公表までの経過	7

《竹田市教育委員会の運営・活動状況》

1 竹田市教育委員会委員	8
2 教育委員会の主な職務権限	9
3 教育委員会会議の開催状況	9
4 教育委員会会議の審議内容	9
○令和3年度 教育委員会審議案件等一覧	10
5 教育委員会会議以外の活動内容	14
6 教育委員会の運営・活動内容についての自己評価	15

《竹田市教育行政点検評価シート》

竹田市教育行政点検評価シートの見方	18
-------------------------	----

学校教育

【夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開】

1. 確かな学力の育成	19
2. 豊かな心の育成	23
3. 体力向上・健康教育の充実	27
4. 幼児教育の充実	30
5. 特別支援教育の充実	32

【安全・安心な教育環境の確保】

6. 学びを支える教育環境の整備・充実	34
7. いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実	43
8. 安全教育の充実	48
9. 学校の働き方改革の推進と教師の健康の保持・増進	50

生涯学習・社会教育

【多様な学習活動機会（内容・方法）の充実】

1. 心豊かな暮らしをつくるための学習活動	52
-----------------------------	----

2. 住みよい地域や職場をつくるための学習活動	54
3. 子どもの健全育成に取り組む学習活動	57
【自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実】	
4. 自発的学習活動を支えるための条件の整備充実	58

歴史・文化

【文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実】	
1. 文化財保存・活用のための組織、仕組みの充実	62
2. 歴史・文化施設の活用の充実	65
【文化芸術の振興】	
3. 文化・芸術活動の支援、文化活動を通じた交流の拡大	66

スポーツ

【スポーツを通じた人づくりと地域づくり】	
1. 生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備	70

《外部評価委員による評価意見》

有識者（学識経験者）による評価及び自己評価に対する意見	75
-----------------------------------	----

《おわりに》

令和3年度竹田市教育行政点検・評価についてのまとめ	82
---------------------------------	----

《点検・評価の概要》

1 点検及び評価の実施方針について

- ・竹田市教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について、点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図ります。
- ・また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進します。

2 点検・評価の対象及び期間

- (1) 対象 点検・評価の対象は、「竹田市長期総合教育計画」及びそれを補完する「竹田市学校教育ビジョン」の施策を基本とした竹田市教育委員会の運営、活動状況を点検・評価の対象としました。対象年度は、令和3年度です。
- (2) 期間 点検・評価の実施期間は、令和4年4月から令和4年8月です。

3 点検・評価の方法

竹田市教育委員会の運営、活動状況及び竹田市長期総合教育計画の施策体系ごとの事務事業の実施状況や成果を明らかにし、今後に向けた課題の整理や方向性の確認などを、担当課による自己評価の方法で実施します。

これを原案とし、教育委員の意見、そして、点検・評価の客観性を確保するため、教育委員会が委嘱した「点検・評価に関する有識者」（外部委員2名）の意見、助言をいただきます。

- (1) 竹田市長期総合教育計画を柱として取り組んだ事務事業を対象とし、各主管課において自己評価による点検及び評価を行います。

＜竹田市長期総合教育計画に掲げる◎基本目標と○基本施策＞

基本理念：「過去を誇り 現在を信じ 未来に憧れる」人づくり・まちづくり

学校教育

◎夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開

- ①確かな学力の育成
- ②豊かな心の育成
- ③体力向上・健康教育の充実
- ④幼児教育の充実
- ⑤特別支援教育の充実

◎安全・安心な教育環境の確保

- ⑥学びを支える教育環境の整備・充実
- ⑦いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実
- ⑧安全教育の充実
- ⑨学校の働き方改革の推進と教師の健康の保持・増進

生涯学習・社会教育

◎多様な学習機会（内容・方法）の充実

- ①心豊かな暮らしをつくるための学習活動

- ②住みよい地域や職場をつくるための学習活動
- ③子どもの健全育成に取り組む学習活動
- ◎自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実
- ④自発的学習活動を支えるための条件の整備充実

歴史と文化

- ◎文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実
 - ①文化財保存・活用のための組織、仕組みの充実
 - ②歴史・文化施設の活用の充実
- ◎文化芸術の振興
 - ③文化・芸術活動の支援、文化活動を通じた交流の拡大

スポーツ

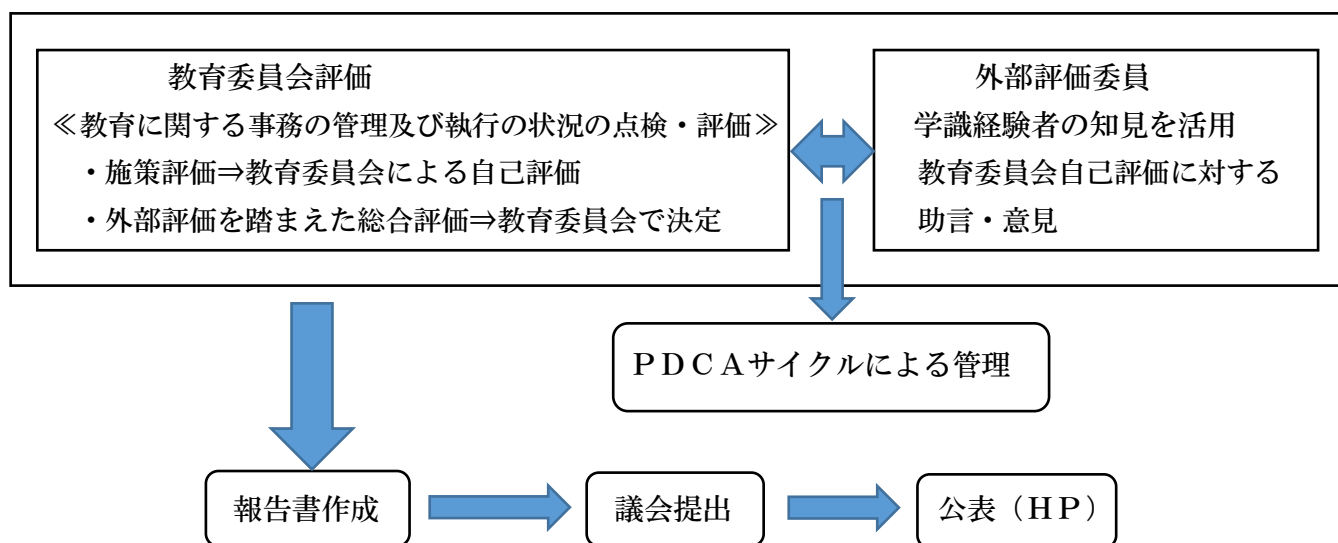
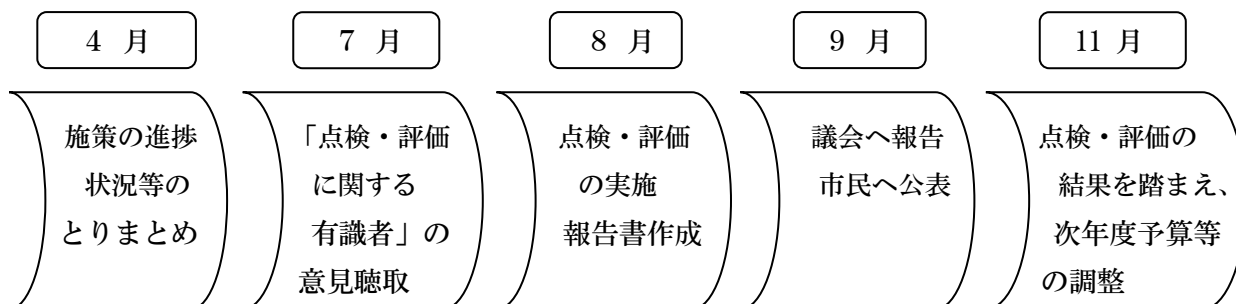
- ◎スポーツを通じた人づくりと地域づくり
 - ①生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備

- (2) 点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組みの方向性を示すものとし、毎年1回実施します。
- (3) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「点検・評価に関する有識者」を配置します。
 - ア「点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱
 - イ「点検・評価に関する有識者」の任期は2年（再任を妨げない）
- (4) 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、有識者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行います。
- (5) 教育委員会において、点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を竹田市議会へ提出します。また報告書は公表するものとします。

【点検・評価に関する有識者】

氏 名	役 職 等	外部評価委員任期
山 崎 清 男	大分大学名誉教授	令和 3年 4月 1日から 令和 5年 3月 31日まで
田 北 敏 彦	元竹田市立南部小学校校長	令和 3年 4月 1日から 令和 5年 3月 31日まで

(6) 点検・評価の流れ



※PDCA 基準

- 「A」評価については、今後も継続できるように利点を伸ばす方策を研究する。
- 「B」評価については、現状を継続しつつも、改良点を検討し、実践する。
- 「C」評価については、どこが良くなかったのかを分析し、改良に向けた検証を行う。
- 「D」評価については、原因究明を行い、改善できなければ事業の見直しを行う。

(7) 評価指針

ア. 評価基準：自己評価を行う際の指針となる評価基準

評価は、それぞれ次の基準により自己評価を行います。まず効果と達成度に評点を設定し、その合計で総合的な自己評価をA～Dの4段階で行います。

評点	効果	達成
5	目標達成に向け 大変有効	指標目標等を上回る達成があった
4	目標達成に向け 有効	指標目標等には及ばないが前年度を上回った
3	目標達成に向け ある程度有効	指標目標等には及ばず前年度並みであった
2	目標達成に向け 少なからず有効	前年度指標等にわずかに及ばなかった
1	目標達成に向け 効果が低い	前年度指標等に大きく及ばなかった
0	目標達成に向け 効果がない	前年度指標等にまったく及ばなかった

評 価	効果点と達成点の合計
A	8 点以上
B	7 点
C	6 点
D	5 点以下

イ. 有識者による外部評価の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 2 項の規定に基づき、前年度に取り組まれた教育委員会の事業内容について、さらに教育行政の向上を図るため、その内容と教育委員会の自己評価に対し、有識者による外部評価をお願いし、外部評価結果については、「3. 今後の課題と方向性」において、自己評価を再調整するものとしています。

4 点検・評価の公表までの経過

令和 4 年	4 月	教育委員会各課宛「竹田市教育行政点検評価シート」作成を通知 ・作成シートの提出… 5 月
令和 4 年	6 月	スケジュール調整
令和 4 年	7 月	外部評価委員へ原稿の送付
令和 4 年	8 月	教育委員会で「竹田市教育行政点検評価シート」について説明 ・前年度をベースとしたスケジュールの確認
令和 4 年	8 月	外部評価委員から一次評価後原稿返送
令和 4 年	8 月	自己評価再調整後、各課からの報告期限
令和 4 年	8 月	第 8 回教育委員会へ点検評価（案）提示
令和 4 年	9 月	外部評価委員へ修正原稿を再送
令和 4 年	9 月	完成
令和 4 年	9 月	第 9 回教育委員会へ点検評価（最終案）提示
令和 4 年	9 月	市議会へ提出
令和 4 年	10 月	竹田市ホームページに掲載

《竹田市教育委員会の運営・活動状況》

1 竹田市教育委員会委員

教育委員会は、政治的中立性を維持しつつ、安定性・継続性を確保して教育行政を管理・執行するため、首長から独立した合議体の執行機関として設置されている。竹田市教育委員会は、市長が議会の同意を得て任命した教育長と4人の委員で組織されている。

竹田市教育委員会名簿

(令和4年3月31日現在)

職名	氏名	職業	就任年月日	任期
教育長	志賀哲哉	地方公務員	R3.5.12	R6.5.11
委員	賀籠六尚樹	製材業社長	R1.6.6	R5.6.5
委員	甲高幸一	会社員	R3.6.6	R7.6.5
委員	佐藤恵	農林業	H30.6.9	R4.6.8
委員	吉野聖子	児童クラブスタッフ	R2.6.7	R6.6.6
前委員	姫野武俊	会社役員	H29.6.6	R3.6.5

- 令和3年度に退任された委員
姫野武俊
- 令和3年度に新たに任命された委員
甲高幸一

※ 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、平成27年4月から、教育委員会は、代表である教育長と4人の教育委員で組織されている。

市長が主宰者となり、市長と教育委員会で構成する総合教育会議が平成27年度に設置され、教育に関する大綱が策定された。総合教育会議においては、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策、緊急の場合に講ずべき措置について協議・調整を行う。

※ 教育長は、市長が議会の同意を得て任命し、任期は3年。

教育長は、教育委員会を代表し、教育委員会の権限に属するすべての事務の具体的な執行を行う。この教育長の統括の下に事務の処理を行う組織として、事務局が置かれている。

2 教育委員会の主な職務権限

竹田市教育委員会の主な職務権限は次のとおり。

- 教育行政の大綱に関すること
 - 市立学校その他教育機関の設置、廃止及び移管に関すること
 - 重要な教育財産の取得に関すること
 - 教科用図書採択に関すること
 - 教科内容の大綱に関すること
 - 県費負担職員の懲戒及び県費負担職員たる校長の任免その他の進退について内申すること
 - 県費負担職員の服務の監督に関する一般方針を定めること
 - 前2項に定めるもののほか、人事の一般方針を定め、及び懲戒を行うこと
 - 教育長及び課長の任免を行うこと
 - 県費負担職員以外の校長、園長、公民館長、図書館長、学校給食共同調理場長、歴史文化館長、佐藤義美記念館長、文化財管理センター所長、直入B&G海洋センター所長の任免を行うこと
 - 市立学校その他教育機関の敷地の設置及び変更に関すること
 - 教育委員会規則の制定又は改廃を行うこと
 - 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること
 - 教育委員会事務局の課の改廃に関すること
 - 市立学校の学区の設置又は変更に関すること
 - 訴訟又は異議の申立てに関すること
 - 文化財の指定解除及び申請に関すること
 - 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価並びに議会への報告及び公表に関すること
 - 前各号に掲げるもののほか、重要な事項
- これらについて教育委員会会議において審議しており、また教育委員会会議以外にも様々な活動を行っている。

3 教育委員会会議の開催状況

毎月1回「定例会」を開催し、随時「臨時会」を開催しているが、令和3年度は、定例会・臨時会あわせて14回の会議を開催した。

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 教育委員会定例会 | 12回 |
| (2) 教育委員会臨時会 | 2回 |

4 教育委員会会議の審議内容

下記のとおり、令和3年度は48件の議題について審議を行った。

- | | |
|------------------------------------|-----|
| • 教科用図書の採択に関すること | 1件 |
| • 県費負担職員たる校長の任免その他の進退について内申すること | 1件 |
| • 課長の任免を行うこと | 2件 |
| • 教育委員会規則等の制定又は改廃を行うこと | 23件 |
| • 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること | 11件 |
| • その他 | 10件 |

○令和3年度 教育委員会審議案件等一覧

(1) 教育委員会審議議題

開催月	番号	件名	提案理由	提出日
4月定例	18	竹田市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について	竹田市立宮城台小学校が閉校したことに伴い、公印の個数を改めるもの	4月5日
5月定例	19	令和3年度竹田市教育費予算(6月補正)要求書について	令和3年度教育予算について、6月補正予算を要求するもの	5月12日
	20	竹田市学習端末機器等貸与要綱の制定について	ICTを活用した授業、家庭学習を進めるにあたり、竹田市立学校に在籍する児童生徒に対し、学習用タブレット、モバイルWi-Fi等を貸与する際の必要な事項を定めるもの。	
6月定例	21	竹田市教育委員会委員の席次について	竹田市教育委員会会議規則第5条の規定により、委員の席次を決定するもの	6月8日
	22	竹田市ドイツ村簡易宿泊施設及びドイツ村温泉条例施行規則の一部改正について	竹田市体育協会の名称が竹田市スポーツ協会に変更することに伴う所要の改正	
	23	竹田市直入B&G海洋センター条例施行規則の一部改正について	同上	
	24	竹田市立小中学校の今後の配置について	竹田市小中学校の児童生徒の減少等を考慮し、学校統合の方針検討を開始することの提案	
	25	竹田市立直入幼稚園の今後について	直入地域の児童の減少等を考慮し、直入幼稚園の令和4年度募集停止並びに令和4年度末の閉園の方針検討を開始することの提案	
6月臨時	26	竹田市教育委員会課長等の任免について	人事異動に伴う竹田市教育委員会課長等の任命について	6月21日
8月定例	27	令和3年度竹田市教育費予算(9月補正)要求書について	令和3年度教育費予算について、9月補正予算を要求するもの	8月5日
	28	教育財産の用途廃止について	文化財管理センター(旧双城中学校体育館)の老朽化により解体を行うことに伴う用途廃止	
	29	教育財産の用途廃止について	文化財管理センター便所(旧双城中学校屋外便所)の老朽化により解体を行うことに伴う用途廃止	
	30	竹田市立学校児童生徒就学援助費補助規程の一部改正について	就学援助費の補助範囲に、オンライン学習通信費を追加するための所要の改正	
	31	竹田市修学旅行等中止に伴うキャンセル料等補助金交付要綱の制定について	新型コロナウイルスの影響で修学旅行等を中止し、又は延期する場合のキャンセル料等	

8月定例			を交付するための必要事項を制定する	8月 5日
	32	令和3年度竹田市教育行政に関する点検評価報告書について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づくもの	
	33	令和4年度使用教科用図書の採択について	義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定に基づき、毎年度種目ごとに1教科用図書を採択することが求められているため	
9月定例	34	直入学校給食共同調理場の今後について	直入学校給食共同調理場の建物の老朽化や児童生徒の減少等を考慮し、令和4年度から竹田中央調理場で給食業務を開始することの提案	9月 6日
	35	令和3年度竹田市教育行政に関する点検評価報告書について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づくもの	
11月定例	36	令和3年度竹田市教育費予算(12月補正)要求書について	令和3年度教育費予算について、12月補正予算を要求するもの	11月 5日
	37	竹田市学校給食共同調理場条例の一部を改正する条例の制定を市長に申し出ることについて	直入学校給食共同調理場を竹田中央学校給食共同調理場に統合することに伴う所要の改正	
	38	竹田市学校給食費徴収条例の一部を改正する条例の制定を市長に申し出ることについて	竹田市学校給食費の統一に伴う所要の改正	
1月定例	1	令和4年度教育費予算(当初)要求書の提出について	令和4年度教育費予算について、当初予算を要求するもの	1月11日
	2	竹田市総合運動公園ネーミングライツ・パートナー選定等委員会審査前の意見聴取について	竹田市ネーミングライツ事業実施要領第15条の規定により、あらかじめ教育委員会に意見を聴くもの	
2月定例	3	令和3年度竹田市教育費予算(3月補正)要求書の提出について	令和3年度教育費予算について3月補正予算を要求するもの	2月 7日
	4	竹田市立幼稚園設置条例の一部を改正する条例の制定を市長に申し出ることについて	令和3年度末をもって直入幼稚園を閉園することに伴う所要の改正	
	5	竹田市体育施設条例の一部を改正する条例の制定を市長に申し出ることについて	指定管理ができる規定を加え、使用料算定の考え方について明記するもの	
	6	竹田市直入B&G海洋センター条例の一部を改正する条例の制定を市長に申し出ることについて	指定管理ができる規定を加え、使用料算定の考え方について明記するもの	
	7	竹田市都市公園条例の一部を改正する条例の制定を市長に申し出ることについて	同上	

2月定例	8	竹田市立幼稚園管理運営規則の一部改正について	直入幼稚園の閉園に伴う所要の改正	2月 7日
	9	竹田市教育委員会公印規則の一部改正について	同上	
	10	竹田市佐藤義美記念館条例施行規則の一部改正について	一定期間市民が無料で入館することができるよう所要の改正を行うもの	
	11	竹田市体育施設条例施行規則の一部改正について	体育施設の現状にあわせ、施設の削除や名称変更を行うもの	
	12	竹田市直入B&G海洋センター条例施行規則の一部改正について	利用申請及び許可書の様式変更を行うもの	
	13	竹田市国指定史跡岡城跡観覧料の徴収及び管理に関する条例施行規則の一部改正について	観覧券に関する規定を明確化するための所要の改正	
	14	竹田市旧竹田荘の管理及び公開に関する条例施行規則の一部改正について	無料観覧券の発行の根拠整備、その他歴史文化館条例施行規則との整合性を図るための所要の改正	
	15	竹田市歴史文化館条例施行規則の一部改正について	無料観覧券の発行の根拠整備、その他竹田市竹田荘の管理及び公開に関する条例施行規則及び竹田市国指定史跡岡城跡観覧料の徴収及び管理に関する条例施行規則との整合性を図るための所要の改正	
	16	竹田市学校給食費徴収条例施行規則の一部改正について	直入幼稚園の閉園に伴う所要の改正	
	17	竹田市部活動検討委員会設置要綱の制定について	竹田市部活動検討委員会を設置することに関し必要な事項を定める	
18	竹田市中学校「制服のあり方」検討委員会設置要綱の制定について	竹田市立中学校「制服のあり方」検討委員会を設置することに関し必要な事項を定める		
3月定例	19	竹田市教育長の職務代理者の指名について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定により、教育長の職務代理者について指名を行うもの	3月 4日
	20	県費負担教職員の人事異動の内申について	県費負担教職員の人事異動について、大分県教育委員会に内申する必要があるため	
	21	竹田市スクールバス運行管理規程の一部改正について	市立幼稚園園児がスクールバス及びスクールタクシーを利用する場合の条件等を整備するための所要の改正	
	22	竹田市教育支援センター設置規則の一部改正について	教育支援センター「サフラン」開室日の見直しに伴う所要の改正	
3月臨時	23	竹田市教育委員会課長等の任免について	人事異動に伴う竹田市教育委員会課長等	3月17日

		て	の任命について
	24	竹田市歴史文化館条例施行規則の一部改正について	係の設置の規定を追加するもの
	25	竹田市教育委員会事務局処務規則の一部改正について	教育委員会事務局庶務規則の事務局の組織及び事務分掌の規定の中に「教育機関」
	26	竹田市学校給食共同調理場管理規則の一部改正について	のものが混在していたため整理を行い、教育機関の組織及び事務分掌について、
	27	竹田市図書館条例施行規則の一部改正について	それぞれの規則で規定するように改正するもの

(2) 請願書の受理・審査

開催月	番号	件名	提出日
		受理なし	

(3) 要望書の受理・審査

開催月	番号	件名	提出日
10月	1	竹田市立小中学校の統合について	9月21日

(4) 協議事項

開催月	件名	提出日
4月定例	小中学校入学式・幼稚園入園式の出席予定について	4月 5日
5月定例	中学校体育大会について	5月12日
6月定例	教育委員のその他の委員について	6月 8日
8月定例	教育長・教育委員学校訪問について	8月 5日
	幼稚園・小学校運動会について	
11月定例	教育長・教育委員学校訪問意見交換記録について	11月 5日
2月定例	小中学校卒業式・幼稚園卒園式及び小中学校入学式・幼稚園入園式の対応について	2月 7日
3月定例	小中学校卒業式・幼稚園卒園式及び小中学校入学式・幼稚園入園式の対応について	3月 4日

(5) 報告事項

開催月	番号	件名	提出日
4月定例	4	竹田市教育費予算（3月補正）について	4月 5日
	5	竹田市教育費予算（当初予算）について	
5月定例	6	竹田市教育費予算（5月補正）について	5月12日
	7	大分県市町村教育委員会連合会役員の選任について	
6月定例	8	竹田市スポーツ振興に関する補助金交付要綱の一部改正について	6月 8日
7月定例	9	竹田市教育費予算（6月補正）について	7月 5日
8月定例	10	竹田市教育費予算（7月補正）について	8月 5日

10月定例	11	竹田市教育費予算（9月補正）について	10月5日
12月定例	12	竹田市直入幼稚園の今後について	12月6日
1月定例	1	竹田市教育費予算（12月補正）について	1月11日

5 教育委員会会議以外の活動内容

令和3年度も引き続き新型コロナウイルスの影響により多くの行事が制約を受け、教育委員が行事に参加することが容易ではない中で、教育委員会では教育委員会会議以外にも以下のような活動を行った。

(1) 学校等の訪問（5日、21カ所）

教育現場の実態把握を目的として、学校、幼稚園、学校支援センターの所管施設を訪問した。教職員の紹介や学校経営の説明を受け、授業参観を通して児童生徒等の様子について気づいた点などを出し合いながら現場の職員と意見交換を行った。校内視察で施設の改修、修繕箇所等の要望を聞いた。令和3年度はコロナ禍での学校訪問ながら、昨年度短縮していた1学校当たりの時間設定を以前と同様の設定に戻し、給食は子どもたちとは別室とし、しっかりと学校運営の実態を把握することができた。

(2) 総合教育会議への出席

令和3年6月に総合教育会議が開催された。竹田市立小中学校の今後の配置について（統合の方向性）協議を行い、該当校保護者や地域住民に丁寧に説明をしていくことを確認した。また、市立直入幼稚園の今後について（閉園）に関しても協議を行い、閉園への方向性を確認した。報告事項として、竹田市のいじめ、不登校、子どもの貧困等の状況や学校教育の現状（学力向上プラン）について学校教育課から報告を行った。

(3) 各種会議・研修等への参加

教育委員、教育長としての資質を高め、教育行政等の情報の取得・意見交換を図るための各種会議や研修会は、令和3年度においても新型コロナウイルス感染症感染拡大により多くの会議が中止（書面議決）となった。

大分県市町村教育長会議、大分県市町村教育長協議会総会はリモート開催により実施。全国都市教育長協議会定期総会及び研究大会（中止）、大分県市町村教育委員会連合会総会（中止）、九州地区市町村教育委員会研修大会（中止）は書面議決となった。

(4) その他行事への出席

幼稚園や小中学校の入園・入学式は、令和3年度もコロナ禍であるため来賓等の出席を求めず、教育委員においては式を見届けるための出席とした。昨年同様告辞を行うことはせず、告辞内容はあらかじめ学校へ送付し掲示等をお願いした。

幼稚園・小学校運動会、中学校体育大会は見届けのため出席（挨拶なし）、竹田市中学校体育連盟球技・剣道大会、竹田市中学校陸上競技大会、竹田市中学校駅伝競走大会、大分県中学校駅伝競走大会には教育委員会は出席しないこととした。

田能村竹田美術祭表彰式、竹田市功労者表彰式に出席した。このほか、委員と事務局との連絡を密にし、日常的に教育行政に関わるようにしている。

(5) 各種委員の就任

教育委員会として各種委員の選出依頼があり、各教育委員が教育委員会の代表として各種委員を務め、それぞれの会議に参加した。

現在、教育委員が委嘱を受けている各種委員は、竹田市民生委員推薦会委員、竹田市社会福祉協議会評議員、竹田市人権擁護審議会委員、竹田市人権啓発推進協議会会員、大分県共同募金会竹田市共同募金委員会運営委員及び審査委員の委嘱を受けている。新たに竹田市総合計画審議会委員の委嘱を受けている。

6 教育委員会の運営・活動内容についての自己評価

(1) 教育委員会会議の審議について

<自己評価>

各教育委員は、研修会に積極的に参加し自己研磨に努めており、教育委員会の会議においても、事務局が提示する資料のみならず、積極的に学校を訪問し保護者の意見も聴取したうえで独自の学習会を開催し、積極的な発言や提言を行うなど充実した審議が行われた。

<課題対策>

任期満了に伴う委員の交代があることから、委員への説明はきめ細かく行うとともに、質問や課題提起に対する回答においても、各課で事前準備や情報収集等の確認を十分に行い会議に臨むこととした。

(2) 教育委員会会議以外の活動について

<自己評価>

各教育委員が委嘱を受けている各種委員の会議等に参加し積極的に意見を述べ、それぞれの組織の活動で得た知見を教育委員会でフィードバックするように努めている。

学校訪問により、先生方との情報交換や授業参観で学校運営の現状を把握し、課題を認識したうえで委員会審議に反映できた。

<課題対策>

人権や福祉に関する外部組織の活動は、教育委員の活動を行う上でも参考になる部分が多く、今後も委員が活動に取り組んでいけるよう事務局として支援していきたい。

学校が抱える課題も施設に関すること、学習に関することなど多岐にわたることから、課題を事前に知らせたうえで学校訪問に臨む。また、保護者から直接委員へ情報提供や相談があることから、事務局として個別に対応するなど課題対策を行う。

総合教育会議は1回開催し、教育の現状とその課題を市長とも共有した。課題も多く緊急問題だけでなく、学校のあり方等長期的な課題もあることから定期的な開催に努めていきたい。

(3) その他教育委員会の運営について

<自己評価>

教育委員の研修については、委員会の組織として独自の研修会を開催することが望ましいことから、令和3年度は12月定例会終了後に人権・部落差別解消推進についての研修会を行った。人権・部落差別解消推進課長に講師をお願いし、「部落差別問題」「性的マイノリティ（パートナーシップ宣誓制度）」について研修した。教育長、教育委員、教育委員会部局課長が参加した。

また、新任の委員へは、事前レクチャーを行い、教育委員としての立場や会議の運営について、ま

た年間の活動等についてスムーズに参加できるよう説明を行った。

委員会審議の内容はホームページで公開している。ホーム画面の「子育て・教育」・「教育委員会からのお知らせ」の中で会議録がを見つけやすくなった。

総合教育会議の会議録もホームページで公開をはじめた。

<課題対策>

各種研修会への出席について案内を行うとともに、部落差別解消推進等人権等の研修については、今後も継続して行いたい。

委員会活動を広く知らせる方策として、ケーブルテレビの活用を検討したい。

竹田市教育行政点検評価シート

過去を誇り・現在を信じ・未来に憧れる人づくり実施施策

(令和3年度実施施策の評価)



▲竹田丸福陸上競技場リニューアル記念陸上教室

<例>

竹田市教育行政点検評価シートの見方

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ ←基本目標分野別

<担当課>

竹田市長期総合教育計画に掲載された「基本目標」→「基本施策」→「主要施策」にある各事業を評価する

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	1. 確かな学力の育成			
主要施策	① 学びの基盤づくりの推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	文章による評価			評点合計により A~D
評価理由	自己評価結果についての理由 成果指標がある場合は、目標値への達成状況の分析による記入			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
	事業の内容をわかりやすく 事業費があれば事業決算額も記載	事業実施後の結果、どのような成果があったか	評点 0~5	評点 0~5

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	1. 確かな学力の育成			
主要施策	① 学びの基盤づくりの推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R 7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	確かな学力の育成をめざし、生活の約束事を示した「生活 TOP10」を全児童生徒と保護者に周知し取組んできた。「生活 TOP10」アンケートの肯定的な回答率は、小中ともに過去7年の中で過去最高であった。			A
評価理由	生活の約束事「生活 TOP10」が児童生徒・保護者に周知でき、アンケートによる肯定的な回答率も高かったため、学びの基盤が構築されていると考えられる。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
生活の決まりや学習の決まりの徹底	生活 TOP10・学習 TOP10を設定し、学期に1回実態をアンケートで把握したうえで、各校が課題解決に向けた取組を実施する。	生活 TOP10のアンケートの肯定的な回答率は、小中ともに過去7年の中で最高であり、学習 TOP10は中学校が過去最高であった。以上のことから「決まり」が徹底されていると考えられる。	5	5
保護者に連携・協力を求める	アンケートで把握した課題をすべての学校が、学校運営協議会の中で共有し、必要な取組を行う。		5	5

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
生活の決まりや学習の決まりの徹底	これまでの結果を踏まえ、生活の決まりや学習の決まりの見直し（絞り込みや新たな項目の設定）を行ったうえで、各校が課題解決に向けた取組を実施する。
保護者に連携・協力を求める	学校運営協議会の中で学校の課題を共有し、学校・地域・保護者が役割分担をして必要な取組を展開する。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	1. 確かな学力の育成			
主要施策	② 多様な他者と協働した探究的な学びの実践			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	確かな学力の育成を目指し、協働的な学び（協調学習や交流授業）をめざしたが、コロナ禍の影響があり実施が困難であった。			C
評価理由	協調学習や交流授業の実施率はコロナ禍の影響があり低調であったものの、教員アンケートでは、97%が「各時間の付けたい力」を明確にして授業に臨んでいると回答している。			

2. 令和3年度主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
協働的な学習の実践	協調学習を取り入れることにより、多様な他者と協働した探究的な学びを展開する	協調学習の実施率はコロナ禍の影響があり52%と低調であった。	3	2
交流授業の実践	複数校による合同授業を実施し、多様な見方・考え方を育む	交流授業の実施率はコロナ禍の影響があり46%と低調であった。	3	2
「主体的・対話的・深い学び」の実現に向けた授業改善	単元計画を作成し、各時間の付けたい力を明確にして授業実践を行う	教員アンケートによると、97%が各時間の付けたい力を明確にして授業に臨んでいると回答している。	4	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
協働的な学習の実践	各校は、「知識構成型シグソー法」に捉われず、他者と協働した探究的な学びの実践を重ね、検証する。
交流授業の実践	グループでの実践・検証を中心にして、児童生徒のコミュニケーション力の向上及び多様な見方・考え方を育むとともに、教師の授業力の向上をめざす。
「主体的・対話的・深い学び」の実現に向けた授業改善	教師は、単元計画を作成し、各時間の付けたい力を明確にして授業実践を行う。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	1. 確かな学力の育成			
主要施策	③ ICT活用の推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	確かな学力の育成を目指し、小学校・中学校ともに一人1台端末を活用して授業改善を行っている。			B
評価理由	校内研修や教科部会で効果的な活用法の論議がなされ、小学校では83%、中学校では93%の教師が、週に複数回一人1台端末を活用して授業を行っている。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
ICT活用教育の推進	一人1台端末を活用し、教育に質の向上をめざす。	小学校では83%、中学校では93%の教師が週に複数回一人1台端末を使用して授業を行っている。校内研修や教科部会で効果的な活用法の論議がなされていた。	4	3

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
ICT活用教育の推進	授業支援アプリケーションの使用率を60%以上、学習支援アプリケーションの使用率を70%以上とし、協働的な学びと個別最適な学びを一人1台端末で支援する。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	1. 確かな学力の育成			
主要施策	④ 学力調査の活用			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
竹田市標準学力調査（学年末）の結果	教科数	全国平均以上 小 0/11 中 5/10	全国平均以上 小 8/11 中 10/10	C
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	R7年度の達成目標値に大きく及ばなかったため			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
4月実施の学力調査の活用	竹田市（小4）、大分県（小5、中2）、全国（小6、中3）の各学力調査結果を分析し、課題を把握するとともに授業改善等に活かす。	学校だけでなく、教科部会においても分析を行い、取組むべき課題を共有した。	3	3
12月実施の学力調査の活用	竹田市標準学力調査（小4は3教科、小5・6年は4教科、中1・2年は5教科）の結果を分析し、取組を検証する。	学校だけでなく、教科部会においても分析を行い、取組むべき課題を共有した。	3	3
年2回「学力向上プラン」改訂	学校教育課は、上記の調査の分析を受け、年2回「竹田市学力向上プラン」を改訂し、各学校に周知する。	大分大学教職大学院や竹田教育事務所とも連携し、学力向上プランを2回改訂し、各校に周知した。	3	3

3. 今後の課題と方向性

主要な事務事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
4月実施の学力調査の活用	竹田市（小4）、大分県（小5、中2）、全国（小6、中3）の各学力調査結果を分析し、課題を把握するとともに授業改善等に活かす。
12月実施の学力調査の活用	竹田市標準学力調査（小4は3教科、小5・6年は4教科、中1・2年は5教科）の結果を分析し、取組を検証する。
年2回「学力向上プラン」改訂	学校教育課は、上記の調査の分析を受け、年2回「竹田市学力向上プラン」を改訂し、各学校に周知する。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	2. 豊かな心の育成			
主要施策	① 人権・部落差別解消教育の推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
市人権教育研修（各学校・園の実施） 実施率	%	100% 中学校区ごとの実施率	幼・小・中の校内研修 を年2回実施 100%	A
成果指標のない 事業の自己評価	—			—
評価理由	例年は統一講師を招聘し、学校ごとに行っている人権教育研修であるが、本年度は同一校区にある小中学校が一堂に会す研修を全中学校区で行った。地域にある課題も含め、同じ地域で勤務する教員同士が人権教育を推進する上で問題意識を共有する研修の場となった。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務事業 名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
竹田市人権・部落差別解消教育研究会と連携した取組	(1)竹田市で開催される「ヒューライツ」の準備・運営について、各種人権団体との連携に基づいて進める。 (2)人権学習会…講演会、ビデオによる学習等	・「ヒューライツ」がコロナ禍により、開催直前に集合研修から書面報告に変更となったが、準備の段階から各種人権団体と緊密に連携することにより、竹田市全体の人権教育を前進させることができた。 ・人権・部落差別解消教育を毎年開催することにより、授業を通じた人権教育の在り方について研究を深めることができている。	4	4
学校教育での人権・部落差別解消教育の推進	(1) 部落問題に係る教職員研修の実施（全学校1回の社会教育指導員による研修）	・中学校区ごとに集まって集合研修をおこなった。特に経験年数の浅い教員にとっては、自分の人権感覚を磨くとともに、授業で部落差別解消教育に取り組むための強いモチベーションとなった。	4	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
竹田市人権・部落差別解消教育研究会と連携した取組	「竹田市教育のまちTOP運動に係る人権・部落差別解消教育プロジェクトチーム会議」として、竹田市人権教育研究会及び児童生徒支援担当教員、教育委員会事務局の3者が委員となり、竹田市の学校教育における人権・部落差別解消教育の推進や「ヒューライツ」の開催について協議、方向性の確認を行ってきた。本年度でTOP運動は発展的解消をするため、次年度の組織については再構築が必要となる。

学校教育での人権・部落差別解消教育の推進	竹田市人権・部落差別解消教育研究会が中心となり、各学校での部落問題学習を一学期一実践として各校において実施した。人権週間を設けたり、互見授業を行ったり、指導案を学年部で検討したりした。経験年数の浅い教員の授業実践に対する悩みや不安をどう払拭するかが課題となっている。
----------------------	---

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	2. 豊かな心の育成			
主要施策	② 竹田郷土学の実践			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	竹田郷土学が、すべての学校の教育課程に位置付けられ、地域の人材等をいかして実践されている。			A
評価理由	竹田郷土学が、すべての学校の教育課程に位置付けられており、地域の人材等を生かした計画的・系統的な実践が展開されている。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
竹田郷土学の推進	教育課程に位置付け、カリキュラムマネジメントによる各校での計画的な実践と改善	すべての学校の教育課程に位置付けられており、地域の人材等を生かした計画的・系統的な実践が展開されている。	4	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
竹田郷土学の推進	カリキュラムマネジメントによる各校での計画的な実践と改善を重ねる。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	2. 豊かな心の育成			
主要施策	③ 道徳教育の充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	「考え、議論する」道徳科の授業実践が増えてきた。			B
評価理由	各学校が児童生徒や学校、地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに道徳教育の全体計画を作成し、「考え、議論する」道徳科の授業を実施している。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
「考え、議論する」道徳科の授業の推進	各学校で読み物を読むだけの学習ではなく、「考え、議論する」道徳科の授業を推進する。	「考え、議論する」道徳科の授業を推進している。	4	3
道徳教育の充実	道徳科の授業時間だけでなく、学校教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を推進し、充実させる。	各教科や特別活動における学級や学校生活における集団生活や体験的な活動、集会活動等も好事例の紹介ができた。	4	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
「考え、議論する」道徳科の授業の推進	「考え、議論する」道徳科の授業を実施できるように、毎月の校長会議で好事例を紹介したり、研修資料を提供したりすることによって、授業改善を推進する。
道徳教育の充実	道徳教育の目標達成に向けて、学校の教育活動全てにおいて道徳教育を推進できるように、研修の機会を提供していく。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	2. 豊かな心の育成			
主要施策	④ 読書活動の推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	国語の授業と連動した並行読書や、学校司書が中心となって行う図書館まつり等教育課程外の活動、委員会活動等により、読書に向かう機運醸成のためのさまざまな実践が行われている。			B
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度全国学力・学習状況調査の質問紙における「一日当たりの読書時間」の回答で「30分以上読書をする」竹田市の小6年生の割合は、46.9%である。これは、県値を6.1ポイント、全国値を9.5ポイント上回る割合であり、読書への関心が高い児童の状況がうかがえる。 令和3年度大分県学力調査の質問紙における「読書は好きですか」の回答で肯定率が、小5年生は80.0（県73.9）%、中2年生は71.6（県65.7）%と県の値を上回る割合であり、読書への愛好度が高いことが分かる。 			

2. 令和3年度主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
各学校での読書活動の推進	全ての小学校の低学年（1～3年）で、毎日学校図書館の本を借り換える実践をおこなっている。	学校図書館で毎日本を借り換えることにより、小学校の早い段階から学校図書館に慣れるとともに、活字に親しむ習慣を身に付けつつある。	3	4
図書館を活用した授業の充実	令和4年度から学校図書館活用教育を授業に取り入れる取組の足場づくりとして、教職員への説明行なった。	教職員に学校図書館に目を向ける意識が出てきている。	3	3

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
各学校での読書活動の推進	これまでに行っている小学校低学年の毎日の図書借換えのほか、ビブリオバトルや味見読書、読書クイズなどのさまざまな読書活動、学校司書が中心になって展開する読書イベントなどの充実を図ることにより、読書に対するさらなる意識の高まりを目指す。学校図書館メディアの所蔵数が少ない学校もあるため、市立図書館との連携をどのように工夫するかが課題である。
図書館を活用した授業の充実	学校図書館を活用した授業を展開するためには、具体的な指導方法のイメージを教職員が描く必要がある。図書の専門職としての学校司書の知見と、教育課程と学校図書館をつなぐ教員の授業技術の融合を図るために、学校図書館活用教育の具体的な進め方に関する研修を進めることが必要である。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	3. 体力向上・健康教育の充実			
主要施策	① 生活習慣を整える取組			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	「あいさつ」「あさごはん」「言葉遣い」「思いやり」「責任」など社会生活や学校生活を支える基本的な生活習慣の定着については、概ね良好である。			B
評価理由	トップ運動における生活習慣改善の指標である「生活TOP10」の10項のうち、児童生徒アンケートの肯定的回答が90%を超えた項目が、小学校で6項目、中学校で6項目であった。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
生活の決まりの徹底	県教育庁が提示している学校評価の4点セットをもとに、各校が生活の決まりの中での弱みについて重点化したうえで、具体的な行動目標を設定して生活指導を進めた。	児童生徒アンケートにみられるように、全体として生活習慣はおおむね整ってきている。	3	4
保護者に連携・協力を求め生活習慣を整える取組	各校の弱みをもとに設定している生活のきまりについては、保護者・地域とも目標を共有しながら、学校・家庭・地域一体となって取組を進めている。	家庭や地域の協力の成果もあって、児童生徒アンケートにみられるように、全体として生活習慣はおおむね整ってきている。	3	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
生活の決まりの徹底	令和3年度でTOP運動が発展的解消をみることになる。令和4年度以降、児童生徒の生活習慣維持・改善のために「生活のTOP10」の項目について見直すことにより、新たな指標を立てることが必要となる。
保護者に連携・協力を求め生活習慣を整える取組	「生活のTOP10」の見直しはなされることがあっても、生活習慣の定着にかかる取組の重要性はかわることはない。引き続き保護者や地域との緊密な連携のもとに、児童生徒の生活習慣定着の取組をすすめる。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	3. 体力向上・健康教育の充実			
主要施策	② 体力向上の取組			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
運動の好きな児童生徒の割合 (全国体力・運動能力調査)	%	小:男子 71.6 女子 68.7 中:男子 78.5 女子 58.4	小:男子 80以上 女子 70以上 中:男子 80以上 女子 60以上	B
成果指標のない 事業の自己評価	—			—
評価理由	運動の好きな児童生徒の目標値には小中の男女いずれとも及ばないものの、特に小学校女子、中学校男子、中学校女子は目標値に近づきつつある。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
体力向上1校1実践の取組	各校が年度初めに設定する体力向上プランの中で、「1校1実践」として全校縄跳びやサーキット運動等各学校の児童生徒の体力に関する課題に応じた実践を一つ設定し、年間にわたって実践を進めた。	1校1実践の内容については、職員会議等で全教職員に周知するとともに、体力調査の結果をもとに実践の検証をすることにより弱みの克服に向かっている。	3	4
体育指導教師の活用及び体育担当者会の開催	竹田小学校に配置されている体育専科教員が、全小学校を年に2回訪問し、単元計画の立て方や授業について実践的なアドバイスを行った。体育主任等研修会については、コロナ禍によりオンラインによる開催とした。	実際に体育の授業について指導をうけることにより、特に経験年数の浅い教員にとっては、授業力向上のための足掛かりになった。オンライン研修は、体育授業のほか食育の取組についても各校に周知する機会となった。	3	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
体力向上1校1実践の取組	体力向上プロジェクト会議の後継となる体力向上推進会議が中心となり、引き続き体力の授業改善、児童生徒の体力向上に取り組む。
体育指導教師の活用及び体育担当者会の開催	令和4年度についても体育専科教員の学校訪問を継続するほか、令和3年度はオンライン開催となった体育主任等研修会を対面で実施することにより、体育の授業構想によりイメージを持って臨むことができるよう、実践的研修の機会とする。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	3. 体力向上・健康教育の充実			
主要施策	③ 食育・虫歯予防の取組			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
むし歯保有者	本/人	0.95	0.9	B
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・12歳の平均虫歯保有率が一人あたり1本以下で目標値に近い。 ・コロナ禍のためできることが制限され、一時的な中断があったものの、フッ化物洗口等も継続実施できている。 			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
食育の推進	・児童生徒の給食の状況を把握するとともに、食に関する指導の充実を図るため、全小中学校に栄養教諭が訪問指導し、教科等で職の指導を実施した。	・栄養教諭が各学校を訪問して食育の推進にかかる具体的な指導を展開することにより、児童生徒の食に関する関心が高まった。	4	3
歯の健康指導の取組	・全小中学校によるフッ化物洗口	・市内全小学校で順調に取り組むことができた。	4	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
食育の推進	・令和4年度も引き続き栄養教諭による食の指導の推進を図る。コロナ禍により十分に実施ができなかった大分県学校給食会との連携による事業も積極的に進める。
歯の健康指導の取組	・引き続きフッ化物洗口を全小中学校で進める。小学校に比して中学校の実施希望者数が少ないことから、フッ化物洗口の啓発に努める。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	4. 幼児教育の充実			
主要施策	① 幼児教育推進のための体制の構築			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
小1プロブレム（小学校生活に適應できない）が認められる学校	校	1	0	B
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	小1プロブレムが見られた学校… 1校			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
幼小の連携	・幼小の連携を図り、学びの習慣づくりや小学校生活の見通しを持たせるなどにより、小1プロブレムや荒れを防ぐ。	・生活 TOP10の幼児版・小学生版を5歳児の在籍するすべての幼児教育施設および小学校に配布し、連携した取組を展開した。	5	3
幼児教育の質の向上	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた指導を推進する。	・全小学校でスタートカリキュラムを作成しているが、公立幼稚園ではアプローチカリキュラムが作成されていない。	3	3

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
幼小の連携	・幼保小の架け橋プログラムのモデル地域（令和4年～令和6年）事業を、文部科学省・大分県教育委員会・大分大学と連携して実践検証することで、架け橋期のカリキュラム開発や必要な連携のあり方等を開発する。（全小学校・全幼児教育施設が参加）
幼児教育の質の向上	

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	4. 幼児教育の充実			
主要施策	② 関係機関との連携強化			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	・公立幼稚園に合計5回、小学校に1回、作業療法士の派遣を実施し、子どもの発達の状況の把握と教員に対する研修や保護者に対する啓発資料の作成・配布を行った。			A
評価理由	・幼児教育の充実のため、関係機関との連携を強化した。2月には、幼児教育施設派遣研修教師を活用し、全小学校・全幼児教育施設対象の中間報告会を開催し、研修を行った。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
関係機関との連携による切れ目ない支援の充実	・園児の発達の状況を把握し、保育・教育活動の改善のため、各幼稚園において年間3回OT（作業療法士）を活用する。	・公立幼稚園に合計5回、小学校に1回OT（作業療法士）派遣を実施し、子どもの発達の状況の把握と教員に対する研修や保護者に対する啓発資料の作成・配布を行った。	5	4
幼児教育施設派遣研修教師の活用	・幼児教育施設派遣研修教師を活用し、幼保小の連携を強化する。	・2月に全小学校・全幼児教育施設が参加し中間報告会を開催し、研修を行った。	5	5

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
関係機関との連携による切れ目ない支援の充実	・架け橋期の子どもの発達の状況を把握し、保育・教育活動の改善のため、各幼稚園において年間3回OT（作業療法士等）を活用する。令和5年は派遣する作業療法士等を4名に増員し、小学校と幼児教育施設双方に派遣する。
幼児教育施設派遣研修教師の活用	・幼保小の架け橋プログラムのモデル校（南部小・南部幼）に派遣教師の在籍校・研修園を指定し、研修の成果を生かし、架け橋期のカリキュラムのモデル案を作成する。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	5. 特別支援教育の充実			
主要施策	① 特別支援教育体制の充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
「個別の指導計画」の作成率（通常学級の支援が必要な児童生徒への作成率）	%	小100 中100	小100 中100	A
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	特別支援教育の充実を図るため、特別支援教育体制の「竹田市特別支援ネットワーク会議」の充実は欠かせない。教育相談会やケース会議を必要に応じて開催するとともに、作成が必要な児童生徒全員分を作成した。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
竹田市特別支援ネットワーク会議の充実	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、専門家を招聘して、教育相談会やケース会議を開催する。 個別の指導計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 13件の相談に対し、専門家を招聘しケース会議を開催するとともに、個別の指導計画が必要な児童生徒全員分を作成した。 	5	5

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
竹田市特別支援ネットワーク会議の充実	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、専門家を招聘して、教育相談会やケース会議を開催する。 担当が1人で悩むことがないように、「チーム学校」として、外部の専門的な知見、力を借りながら、組織的に取組む。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開			
基本施策	5. 特別支援教育の充実			
主要施策	② 教師の専門性の向上			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	・年間2回の研修会に加え、個別研修ができるeラーニングのシステムを導入した。			A
評価理由	特別支援教育の充実を図るため、教師の専門性の向上は喫緊の課題である。年間2回の集合研修のほか、個別研修ができるeラーニングのシステムを導入し、教員個々に応じた資質・能力を高める研修ができるシステム作りをした。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
特別支援教育研修の充実	・教職員の専門性を高めるため、特別支援コーディネーター研修等を実施する。	・年間2回の研修会に加え、個別研修ができるeラーニングのシステムを導入した。	5	5

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
特別支援教育研修の充実	・教職員の専門性を高めるため、研修会を開催するとともに、eラーニングシステムや大分県教育センターでのテーマ別研修を活用する。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜教育総務課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	6. 学びを支える教育環境の整備・充実			
主要施策	① 安全安心な学校施設・設備の整備・充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
維持補修計画の実施率	%	50	100	B
様式トイレの整備率	%	50	70	B
教室LED照明整備率	%	10	50	C
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	<p>短期的な維持補修計画は、校舎、体育館、プール等項目ごとに策定した。そのほか、洋式トイレの整備やエアコンの設置について今後の方針案がまとまった。また、長寿命化計画を平成30年度に策定しており、計画策定に伴い今後10年間の事業計画もまとまった。</p> <p>なお、国が打ち出す教育環境整備方針を注視しつつ、高度な情報通信環境整備の構想を定めていく必要がある。</p>			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
施設の維持補修事業	年度当初に学校施設管理者と施設の状況を確認し点検を行う。また、学校管理者から施設改修要望箇所を聴取する。維持補修及び改修が必要な箇所を特定して、優先順位をつけ事業実施する。	限られた予算での事業実施となり、緊急度や安全面を考慮しつつ優先順位をつけ、実施した。 老朽化に伴う不具合等、当初計画で対応できない箇所については、年次計画により対応することとした。	4	3
洋式トイレの整備	令和2年度に創設された新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金では、公共施設におけるトイレの洋式化改修が一つのメニューとして提示され、改修箇所の選定、実施設計を行い、令和3年度には繰越事業として改修工事を発注し、改修を完了した。	トイレを洋便化し、小中学校の環境改善を図った。また、新型コロナウイルス感染症の感染経路の一つに、排泄物を水洗した際にウイルスが飛散することが判明しており、その感染症対策の一助とすることができた。	4	3
教室LEDの照明整備	小中学校の教室の照明器具をLEDに交換することで、国の進める脱炭素化、省エネルギー化に資する。合わせて、修繕料、電気代の節約を図る。	照明器具の交換、LED化を順次、可能な学校、箇所から行った。設備として改修工事が必要な箇所についても今後計画的に取り組む必要がある。	4	2

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
施設の維持 補修事業	限られた予算での事業実施となるが、緊急度や安全面を考慮しつつ優先順位をつけ、実施する。
洋式トイレ の整備	国庫事業等を活用し、計画的にトイレの洋便化を図る。
教室 LED の整備	水銀灯の製造中止により屋内運動場の LED 化の緊急度が高くなっており、教室の LED 化も含め、国庫補助事業を活用するために計画を立てる必要がある。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜教育総務課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	6. 学びを支える教育環境の整備・充実			
主要施策	② ICT活用等教育環境の整備・充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	%	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	GIGAスクール構想に伴いICT環境の整備については、一定の成果を上げている。			A
評価理由	大型提示装置については、普通教室に整備済。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
大型掲示装置の整備 (電子黒板の整備)	竹田市立小・中学校の普通教室には平成21年度の補助金を活用して、大型掲示装置が設置されておりPCやipadを接続させて効率・効果的な授業を行っている。しかし、画面への書込等ができないため、教員は操作する際にPCのところに行かなければならない。電子黒板は直接ボード上に書き込みができ、すぐに消すこともできる。また、ペンで操作するため、児童・生徒にも扱いやすい。また、書いたものをデジタルデータで残すことができ、あとで呼び出すこともできる。新学習指導要領が求めているアクティブラーニング、協調学習やプレゼンテーション等にさらに効果があり導入する。	平成30年、文部科学省は教育のICT化に向けた環境整備5カ年計画を発表し、そこでは「電子黒板の整備」ではなく「大型掲示装置の整備」に変更された。現在大型掲示装置はすでに導入されていることとなっている。 加えて、令和2年度創設の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、普通教室、特別教室、及び屋内運動場へ電子黒板機能を有する大型提示装置を新設した。	3	5

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
電子黒板の整備	大型掲示装置としてはすでに導入済みとなったが、GIGAスクールネットワーク整備事業及び新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、施設内高速通信網、一人1台端末、及び電子黒板機能を有する大型提示装置を新設することができた。 今後は、整備された学習教材の利活用についての周知、研修等を進めていく必要がある。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

<竹田中央学校給食共同調理場>

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	6. 学びを支える教育環境の整備・充実			
主要施策	③ 学校給食の充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R 3	R 7 目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	1. 市町合併時の懸案であった学校給食費の統一を複数年かけて統一する。 2. 異物混入やアレルギー対応を再徹底し、給食事故ゼロを目指す。			A
評価理由	1. 市町合併時からの懸案であった学校給食費の統一については、それぞれの立場から貴重な御意見を伺いながら意見交換を行った結果、令和4年4月からの統一に了承を得ることができた。 2. 健康被害が生じる恐れのある危険物の混入やアレルギー事故等はなかったものの、7件の異物混入（非危険物）があった。今後も職員全員で情報を共有し、マニュアルの再確認などの対策を講じながら安心安全な給食提供に向けて努力する。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
竹田中央学校給食共同調理場運営事業	① 学校給食運営審議会の開催 保護者代表、小中学校長代表、行政機関代表により、共同調理場の全体的運営を適正かつ円滑に行うため、事業概要や予算、給食物資納入業者、委託事業者、給食費の統一等について審議した。 ・審議会…7/15、11/29、(3/7は書面会議) ・給食費統一に係る保護者説明会…15回 ② 学校給食専門部会の開催 調理場と各学校給食担当教員との連絡・調整を図り、食中毒感染防止や献立等について協議を行い、栄養バランスのとれた安全・安心な給食の実施に努めた。 ・中央…(4/22、12/17、3/14) ・久住…(4/23、12/14、3/15) ・直入…(4/22、12/17、3/15) ※7/29は書面会議(新型コロナウイルス感染症防止の為) ③ 学校給食研究会の開催	① 給食費についてそれぞれの立場から意見交換を行い審議した結果、令和4年度からの給食費を統一することに了承を得ることができた。 給食調理場の統合について意見交換を行い、食数の減少や施設の老朽化等の理由による統合を理解していただいた。 ② 関係機関、PTAや学校等と連携し、意見交換や情報の共有を図り、事故防止の徹底を図ったことから、健康被害が生じる恐れのある重大事故等はなかった。 ③ 地域の活性化に寄与し、食育を	4	4

	<p>調理場栄養士等と共同で、地元食材の利用促進を図りながら、魅力ある給食作りや、安全・安心のための衛生管理等の調査・研究に努めた。</p> <p>④ 安全・安心な給食の提供</p> <p>施設設備の保守点検などを行いながら、竹田・荻地域の幼稚園2園、小学校7校、中学校3校、県立支援学校1校の計13学校施設の園児及び児童・生徒1,193名へ栄養バランスの取れた給食を提供した。</p>	<p>推進するため地元の食材を優先して活用した。</p> <p>④ 異物混入対応マニュアルの指針に従い、場内の機器設備の保守点検等を定期的に行った。また、アレルギー対応マニュアルに基づき、安全・安心な給食が提供できた。</p>	
久住学校給食共同調理場運営業務	<p>小学校3校、中学校2校の計5学校施設の児童・生徒273名(教職員等含)へ栄養バランスのとれた給食を提供した。以下中央調理場に同じ。</p>	<p>地域の活性に寄与し、食育を推進するため地元の食材を優先して活用し、安全・安心な給食が提供できた。</p>	
直入学校給食共同調理場運営業務	<p>幼稚園1園、小、中学校それぞれ1校の園児及び児童・生徒165名(教職員等含)へ栄養バランスのとれた給食を提供した。以下、中央調理場に同じ。</p>		

3. 今後の課題と方向性

主要な事務事業名称	<p>施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）</p>
調理場運営業務	<p>異物混入及びアレルギー対応の各マニュアルを再徹底し、給食事故ゼロを目指す。</p>
	<p>給食費の改定について、近年の物価上昇や喫食数の増加等を鑑みながら検討していく。</p>
	<p>調理場の統廃合について、行革の内容を考慮しながら引き続き検討する。</p>

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜教育総務課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	6. 学びを支える教育環境の整備・充実			
主要施策	④ 適正な学校規模への対応			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R 7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	<p>令和2年度に実施した「今後の学校のあり方」のアンケート結果をもとに、小学校3校（白丹小、城原小、菅生小）、中学校3校（久住中、都野中、直入中）の統合の方向性について提案することとした。令和3年度に教育委員会及び総合教育会議で協議し、今後は保護者や地域の方に丁寧に説明を行っていくことを確認した。その内容を議会へ説明した後、各小中学校保護者、未就学児保護者、地域住民（自治会長）へ説明会を開催した。</p> <p>久住中学校は竹田中学校に、菅生小学校は南部小学校に統合することを、それぞれの統合検討委員会で承認され決定した。</p> <p>また、直入幼稚園については、保護者との協議により令和4年度入園児の募集を行ったが、応募者数が規則の規定に満たなかったため、令和3年度末をもって閉園し、令和4年度から竹田幼稚園へ統合することとなった。</p>			B
評価理由	今後の学校の在り方について方向性が決まった学校は2校であった。また、4校は統合検討委員会を立ち上げることができなかった。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
適正な学校規模の方向性	<p>小中学校の6校について、R2 実施のアンケート結果を基に、今後のあり方について協議し、教委委員会、総合教育会議で意思決定を行った。</p> <p>○今後の学校の在り方について、提案内容 白丹小・・・久住小へ R5年度統合 城原小・・・竹田小へ R5年度統合 菅生小・・・南部小へ R6年度統合 久住中・・・竹田中へ R5年度統合 都野中・・・竹田中へ R5年度統合 直入中・・・竹田中へ R6年度統合</p> <p>市議会説明ののち、各学校保護者、未就学児保護者、地域（自治会長）への説明会を行った。</p>	<p>6校の学校保護者、中学校においては将来入学予定の小学校保護者、未就学児保護者、地域（自治会長）への説明会を行った。久住中学校及び菅生小学校の統合検討委員会を立ち上げた。合計 40 数回の説明会を実施した。</p> <p>久住中学校については、R5年度に竹田中学校への編入による統合、菅生小学校については、R7年度に南部小学校への編入による統合が、それぞれの検討委員会で承認され決定した。また、菅生小学校について</p>	4	3

		<p>は、今後も保護者との協議を継続し、学校間の交流をすすめていくこととなった。</p> <p>その他の4校については統合検討委員会を立ち上げるに至っていない。</p>		
直入幼稚園の今後について	<p>令和3年度直入幼稚園の園児数は、5歳児4名、4歳児1名の合計5名であった。少子化が進む中で今後の園児の増加は見込めないこと、幼児の集団の中での教育の必要性、園舎等建物の老朽化、立地環境・危機管理上の不安（小学校から遠く離れている等）の観点から、令和3年度末での閉園の方向を教育委員会や総合教育会議で協議、確認し、説明会を行った。</p>	<p>直入幼稚園保護者、未就学児保護者、直入地域自治会長に合計5回の説明会を開催した。閉園についての理解を得ることは難しく、保護者の要望により令和4年度の園児募集を実施することとした。募集期間を通常より延長したが、入園希望者数が規定の5人に満たなかった。結果、令和4年3月末をもって閉園し、令和4年4月から竹田幼稚園へ統合することとなった。</p> <p>令和4年3月26日（土）に直入幼稚園閉園記念式典を執り行った。</p>	4	4

3. 今後の課題と方向性

<p>主要な事務 事業名称</p>	<p>施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）</p>
<p>適正な学校規模の方向 英</p>	<p>統合の方向性が決定していない4校について、保護者と地域住民参加の統合検討委員会を立ち上げ、その中で統合の方向性について検討していくことが必要。</p>

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	6. 学びを支える教育環境の整備・充実			
主要施策	⑤ 地域とともにある学校づくりの推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	学校運営協議会を通して、地域の人々と課題や目標・ビジョンを共有できた。 コロナ禍であっても、地域学や郷土の偉人を学ぶことを止めずに推進できたことが、 継続的な学びという観点から大きな成果であった。			A
評価理由	各学校で「総合的な学習の時間」の中で、コロナ禍でも感染予防しながら、必要に応じて 現地調査や地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域のヒト・モノ・コトを止めずに推 進できたことが、「A」に値する。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
課題への取組	学校運営協議会や公開授業を通して、開かれた学校から一歩踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し、家庭や地域と一体となって社会総がかりで子どもたちを育む「地域とともにある学校」への転換を図るとともに、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の連携・協働を推進する。 また、地域の方をゲストティーチャーとして招き、「地域のヒト・モノ・コト」の学びを推進する。	学校運営協議会を通して、地域の人々と課題や目標・ビジョンを共有できた。しかしながら、コロナ禍という事で公開授業等の行事が、保護者等限定された。 小中学校においては「総合的な学習の時間」の中で地域のヒト・モノ・コトを継続的に学ぶことができた。「竹田市ならではの教育」としては、学校毎に田能村竹田や佐藤義美、瀧廉太郎、筑紫久嶺などの竹田の偉人に学び、調べ、まとめ、発信したりしている。「瀧廉太郎を偲ぶ音楽祭」は第73回を開催し、コロナ禍であっても郷土の偉人に学ぶことを止めずに推進できた。	4	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
課題への取組	学校運営協議会や公開授業を通して、各学校の目標やビジョンを地域住民等と共有し、会総がかりで子どもたちを育む「地域とともにある学校」への転換を図る。新たな共有方法を検討する。 また、ギガスクール構想で全児童・生徒に整備した i p a d を活用して、さらにより深く地域学を推進する。（外部評価を受けて課題等を再度検証する）

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	6. 学びを支える教育環境の整備・充実			
主要施策	⑥ 市内高等学校への支援			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	竹田高校で、初の試みとして中2対象に体験セミナー（竹田高校教諭による授業）を実施できたことは、中高連携として大きな前進であった。			A
評価理由	竹田高校で、中・高連携して、初の試みとして中2対象に体験セミナー（体験授業）を実施できたことは、「A」に値する。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
課題への取組	<ul style="list-style-type: none"> 市内高等学校への支援として大分県立竹田高等学校、大分県立久住高原農業高等学校、学校法人稲葉学園竹田南高等学校の3校の高等学校の教育内容や教育環境について、生徒や保護者に各高等学校の魅力を伝える場をつくり、中・高連携をより幅広く密にしながら、竹田の子どもたちにとって貴重な進学先を確保することに努め、幼・保から高校までの教育をつなぎ、地域の人材を地域で育てていく。 市として高校を存続させるため各高等学校の魅力を伝える場をつくり取組 	<ul style="list-style-type: none"> 竹田高校では、初の試みとして中2対象に体験セミナーを実施できた。 また、竹田市中学校日本語弁論大会の70周年を記念して、ドイツ、広島、竹田を繋ぐトークセッションを開催しました。竹高OBの活躍に触れることにより、竹田高校への憧れを抱く感想が聞かれました。 久住高原農業高校では、教育長を会長とした学校運営協議会（CS）が、高校の魅力を地域へ発信することを目標として機能している。 竹田南高校は、存続向けの市としての対応はありませんでした。 	4	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
課題への取組	<p>各高校の学校運営協議会等との連携によって、生徒・保護者に対して市内3校の特色ある教育、成果、進路先の周知徹底を図る。</p> <p>来年度は、竹田高校の維持・発展に寄与することを目的とする、市長をトップに据えた「竹田高校の未来を輝かせる会（仮）」を発足させる。（外部評価を受けて課題等を再度検証する）体験授業や合同部活を通して、中高連携を図っていく。</p>

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	7. いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実			
主要施策	① いじめ対策の充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
いじめ解消率	%	小学校 54.9 中学校 78.6	小・中ともに83以上 (R1全国解消率以上)	B
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	いじめについて、各学校では日ごろの生徒指導や学級経営を通じて解消に向けて引き続き取り組んでいるが、すべてのいじめが解消することには至っていない。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
未然防止対策	<ul style="list-style-type: none"> 互いに認め合うことのできる学級・学校づくりをめざすとともに、すべての教育活動の基盤となるわかる授業を展開する。 学級集団等の中で良好な人間関係づくりが可能になるよう、「人間関係づくりプログラム」を積極的に実施する。 ネットいじめ等にも対応できるよう道徳教育の視点をもったネットリテラシー教育を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係づくりプログラムについては、毎週実施している小中学校が全体の94%となり、プログラムの定着が進んでいる。 ICT支援員を各校に派遣して、ネットリテラシーに係る授業を実施するとともに、タブレットを用いて実践できるネットリテラシー授業の事例集を各校に配布し教員が行う授業の一助としている。 	3	4
早期発見・早期対応	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめはどの子ども、どの学校においても起こりうるもの」という認識のもと、「いじめ見逃しゼロ」を目指す。 生徒指導主任等を中心とした組織的な対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての小中学校において、いじめの認知をしていることから、各学校の教職員が「いじめ見逃しゼロ」の認識を持ち始めていることがうかがえる。 担任任せにするのではなく、学校長・教頭・学年主任・生徒指導主任等がいじめをはじめ生徒指導上の事案に対し、それぞれの強みを生かしながら連携して対応している。 		
関係機関と連携した支援	<p>スクールカウンセラー、スクールサポーター等関係機関と連携した支援の充実を図る。</p>	<p>学校で完結せず、学校外の機関と連携することのハードルは、実際の連携を通じて徐々に低くなっている。</p>		

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
未然防止対策	学校によって取組の状況に差があることから、取組の好事例を会議や研修会等で他校に紹介すること等により、未然防止対策の効果的な運用を他校にも広げる。
早期発見・ 早期対応	引き続き、生徒指導上の事案に対して組織で対応することを徹底し、報告・連絡・相談を基本にしながら小さな情報でも学校内で共有することを促す。
関係機関と 連携した支 援	関係機関との連携については、学校による意識の違いがあり、積極的に外部人材を活用しようとする学校とそうでない学校では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの協議・面談等の回数にも違いがでている。外部人材の活用・支援の受入については機を見て、管理職等への啓発を図る。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	7. いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実			
主要施策	② 不登校対策の充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
不登校児童生徒数	人/ 1000人	小 11.3 (県 10.5) 中 47.5 (県 46.4) <small>令和2年度文科省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」</small>	小 4以下 中 30	C
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	1000人当たり不登校の発生数は、小学校・中学校ともに県値及び全国値に比して若干多い傾向がある。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
未然防止対策	<ul style="list-style-type: none"> 認め合う学級・学校づくり、わかる授業を展開する。 日ごろからの良好な人間関係を目指して、「人間関係づくりプログラム」の実践を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係づくりプログラムについては、毎週実施している小中学校が全体の94%となり、プログラムの定着が進んでいる。 	3	3
早期発見・早期対応	<p>学級集団の状況について測定・調査するHyper-QUを年2回実施、結果を分析することにより、学級や一人一人の実態と変容を把握し指導に活用する。</p> <p>各学校で連続3日欠席、断続5日欠席の児童生徒が認められた場合、市教委に報告する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学級集団の状況については、多くの学校で1回目に比べて2回目の結果で改善がみられる。 市教委は学校から報告のあった児童生徒の状況について、課内・社会福祉課・教育支援センター・ソーシャルスクールワーカーと情報を共有し、支援の方向確認に活用することができた。 		
学校復帰 社会復帰に向けた支援の充実	<p>生徒指導主任等を中心とした組織的な対応、他機関等との連携を図ることにより、家庭及び本人に向けて継続的な支援を保持する。</p>	<p>各学校での別室登校や家庭訪問の工夫、教育支援センターサフランやソーシャルスクールワーカーとの連携による学校復帰支援等により、学校に復帰することができた児童生徒がいる。</p>		

3. 今後の課題と方向性

<p>主要な事務 事業名称</p>	<p>施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）</p>
<p>未然防止対策</p>	<p>「人間関係づくりプログラム」実施のさらなる充実を図るため、地域児童生徒支援コーディネーターを一層活用して、プログラムの普及を図る。</p>
<p>早期発見・ 早期対応</p>	<p>Hyper-QU の結果分析を日ごろの生徒指導に生かすという意味では、分析方法が各学校により異なることから、現状把握の的確さに差がある。今後 QU の分析については研修会を実施するなどして、結果が生徒指導に的確に反映されるような方策を講じる。</p>
<p>学校復帰 社会復帰に 向けた支援 の充実</p>	<p>引き続き教育支援センターやソーシャルスクールワーカーとの連携により、支援の充実を目指す。今後民間のフリースクール等との連携を模索しながら、不登校児童生徒をひとりにしない、誰かが不登校児童生徒に関わっているという状況を構築する。</p>

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	7. いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実			
主要施策	③ 子どもの貧困対策の充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	スクールソーシャルワーカーや社会福祉課との連携のもとで、貧困の状況にある児童生徒の状況を把握、支援に繋げた。			B
評価理由	学校や当該家庭からの情報により、貧困の状況を把握し、社会福祉課等との連携に基づいて、具体的な支援の検討を行った。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
早期発見・ 早期対応	相談体制の充実を図る。	福祉課からの情報をもとに、貧困の状況にある家庭について、スクールソーシャルワーカーによる相談・支援を行った。	4	3
関係機関と連携した支援	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・福祉課等との連携を強化する。	学校教育課・スクールソーシャルワーカー、福祉課との連絡会を月に一回の実施から毎週に増やすことにより、連携の強化が進んでいる。		

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
早期発見・ 早期対応	家庭が貧困の状況にあるかどうかについては情報の収集が難しいことから、早期に対応することは学校でも困難である。早期発見から早期対応を可能にする情報の入手と共有をどのようにするかが課題である。
関係機関と 連携した支援	貧困にかかる情報については学校教育を掌る部署だけでは把握できないため、社会福祉課等関係機関との緊密な連携が必要であり、現在週に一度開催している連絡会等において、貧困の状況も含めた情報共有の場の充実を図る必要がある。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	8. 安全教育の充実			
主要施策	① 防災教育の充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	各学校とも防災教育モデル実践事業の報告等を受け、防災教育を積極的に行った。			A
評価理由	各校の実態・課題に即した研修が計画的に実施されている。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に適切な意思決定や行動選択ができるよう、各学校において実践的な防災教育を推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学校において実践的な防災教育、防災対策を推進し、児童生徒が、災害時に適切な意思決定や行動選択ができるよう適宜指導した。 	5	5
家庭や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の対応等、家庭や地域と共有する。 P T Aの際などに連休や長期休業中の注意事項を説明する。また、健康や生活習慣に関する指導を実施する。 日常的に地域の交通指導をしてくださっている方と情報共有をする。 	<ul style="list-style-type: none"> P T Aの際などに連休や長期休業中の注意事項を説明したり、登下校の安全指導を共有することで、家庭と連携して安全な過ごし方を考えることができた。 	5	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に適切な意思決定や行動選択ができるよう、各学校において実践的な防災教育を推進していく。
家庭や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に適切な意思決定や行動選択ができるよう、家庭や地域と連携し、実践的な防災教育を推進していく。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	8. 安全教育の充実			
主要施策	② 防災対策等の推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	各学校とも避難訓練（火災・地震）や交通安全教室、自転車の乗り方教室等等を組織的かつ計画的に行った。			A
評価理由	各校の実態・課題に即した研修が計画的に実施されている。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
防災対策の推進	・避難訓練（火災・地震）や交通安全教室、自転車の乗り方教室、不審者対応等を計画的に実施する。	・児童生徒が、災害時に適切な意思決定や行動選択ができるよう適宜指導した。	5	4
家庭や地域との連携	・安全な登下校指導を連携して行う。	・事故なく安全な登下校ができた。	5	5
新型コロナウイルスへの対応	・今般の新型コロナウイルス感染症対応の経緯を踏まえ、新たな感染症発生の緊急事態であっても、関係機関と連携して必要な教育活動を継続する。	・全ての学校で新型コロナウイルス感染症対策が適切に行われていた。また、感染者が確認された時は、どの学校も迅速に対応していた。	5	5

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
防災対策の推進	・避難訓練（火災・地震）や交通安全教室、自転車の乗り方教室、不審者対応等が、形骸化することなく、組織的かつ計画的に実施する。
家庭や地域との連携	・引き続き安全な登下校指導を連携して行う。
新型コロナウイルスへの対応	・科学的な正しい知識のもと、迅速に対応していく。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	9. 学校の働き方改革の推進と教師の健康の保持・増進			
主要施策	① 学校の働き方改革の推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
1ヶ月の時間外勤務時間が45時間以上の教師	人	29	5	B
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	1ヶ月の時間外勤務時間45時間以上の教師は、令和2年度（感染症対策で2ヶ月学校休校期間あり）は平均28人であったが、令和3年度は29人と同様であった。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
学校の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> パソコンの出退勤の打刻によって勤務時間の適正管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1ヶ月の時間外勤務時間45時間以上の教師は、令和2年度は感染症対策で2ヶ月学校休校期間があったにもかかわらず、1ヶ月平均28人であったが、令和3年度は29人と同様であった。 	4	3

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
学校の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 教師が教育活動に専念し、持てる資質能力を十分に発揮し、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるよう、今後もより一層の働き方改革の推進をしていく。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（学校教育）

＜学校教育課＞

基本目標	安全・安心な教育環境の確保			
基本施策	9. 学校の働き方改革の推進と教師の健康の保持・増進			
主要施策	② 教師の健康保持・増進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
ストレスチェック受診率	%	100	100	A
健康診断再検査受診率	%	100	100	A
成果指標のない事業の自己評価	———			—
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・前・後期とも全教職員が、ストレスチェックを実施した。 ・全教職員が健康診断を受診し、要精密該当者も全員再受診している。 			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
教職員のストレスチェック	・ストレスチェックを受検することによって教職員がストレス軽減へのセルフケアに取り組む。	・前期、後期ともにストレスチェックを全教職員が受検することによって、高ストレス者は個別対応や医者への面談に繋げ、早期対応ができています。	5	5
教職員の健康診断	・健康診断を受診し、要精密該当者は、再受診することによって健康に働き続けることができる。	・全教職員が健康診断を受診し、要精密検査該当者も全員が再受診することによって病気の早期発見・早期治療に繋がっている。	5	5

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
教職員のストレスチェック	・引き続き100%実施を呼びかけ、教職員の高ストレスを早期発見し、対応していく。
教職員の健康診断	・引き続き100%実施を呼びかけ、教職員の病気を早期発見し、治療に繋がっていく。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育）

＜生涯学習課＞

基本目標	多様な学習活動機会（内容・方法）の充実			
基本施策	1. 心豊かな暮らしをつくるための学習活動			
主要施策	① 青少年教育の充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7標値	自己評価
ジュニアリーダーセミナー	回	4	5	B
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	<p>新型コロナウイルス渦の中ではあったが、岡城跡で江戸時代の道をタイムスリップしたように坂を上り当時の方の気持ちによりそれたり、岡城大豆を使用し「味噌づくり」を体験したり安全対策に気をつけながら、参加児童に楽しく活動してもらえるように取り組んだ。</p> <p>今年度の各セミナーに30名～40名の参加児童数があり、とても活気のある時間となった。</p>			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
青少年教育 (ジュニアリーダーセミナー)	市内の各小学校から児童が参加し、生活体験や自然体験等さまざまな活動を通じて参加児童が親睦・交流を深めることにより、心豊かな青少年の育成を図ることを目的とする。	ジュニアリーダーセミナー 登録者数 51人 スノーボード教室は実施することができなかったが、今年度は郷土の食材を使用した大豆作りや新しい岡城の発見など体験することができた。	3	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
青少年教育 (ジュニアリーダーセミナー)	<p>小4～小6までの児童が色々な体験を通して楽しみながら学習ができる魅力のある企画が必要。</p> <p>毎年、ワクワク感や工夫を取り入れた特色のある事業になるよう努める。</p> <p>セミナー受講生が感じたこと、学んでよかったことや変更が必要なことなどを聞き取り、次に生かす取り組みの方策を、今後検討していく。</p>

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育）

＜生涯学習課＞

基本目標	多様な学習活動機会（内容・方法）の充実			
基本施策	1. 心豊かな暮らしをつくるための学習活動			
主要施策	② 成人・高齢者の学習活動推進・支援			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
高齢者大学	回	5	8	C
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	参加者の固定化、学習会のマンネリ感は拭えないが、加えて新型コロナウイルス感染症の影響で全体の参加人数の減少や学習会の中止等によって、受講生（高齢者）の「家のひきこもり」が長引き、単位の目標値には届かなかった。また学習意欲の低下がみられたこともあり、自己評価は「C」とした。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
高齢者大学	竹田市に在住する概ね65歳以上の学習意欲のある者を対象に、明るく楽しく豊かに生きる高齢者、社会的能力を養い、自立した生活を送ることを目的とする。	<p>高齢者大学受講生 197人（竹田学級101人、久住学級30人、荻学級15人 直入学級51人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹田学級 学習会2回開催 ・久住学級 学習会7回開催 ・直入学級 学習会4回開催 ・荻学級 学習会2回開催 <p>新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で開講式の開催を中止した。市内に感染者が発生に伴い学習会を急遽中止したり、視察研修も中止する等、一年を通してコロナ対応に追われた。</p> <p>学習会後に実施しているアンケート調査をもとに、より多くの高齢者ニーズを把握し、「学びたい」という要望の実現に努めた。しかし、家にこもる機会が増えたため、高齢者の「学習意欲」や、会場に足を運んで学ぶ「参加意欲」の低下が「参加人数」や「アンケート回答（例：会場までが遠くて行けない…）」等に顕著に表れていた。</p> <p>・しかしながら、コロナ禍においても「久住学級」は学習会回数を伸ばした。久住公民館くじゅうサンホールの利便性を活かし、グランツたけたのアウトリーチコンサートを誘致。受講生にクラシック音楽鑑賞の機会を設けることができた。</p>	3	3

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
高齢者大学	高齢者大学を開催することによって、高齢者がその年齢にふさわしい社会的能力を養う場の提供ができている。学習会終了後、受講生にアンケート調査を実施。より多くの高齢者が参加していただけるように貴重な意見を参考にしている。特に、受講生平均年齢は80歳を優に超えている（80代は全体の約7割）現状のため、幅広い多様性を持った「団塊の世代」を取り込んでいけるような「魅力ある学習内容・テーマ」、「近くの自治会館等で出前学習会企画」等の検討が急務といえる。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育）

＜生涯学習課＞

基本目標	多様な学習活動機会（内容・方法）の充実			
基本施策	2. 住みよい地域や職場をつくるための学習活動			
主要施策	① 人権学習の推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
人権教育推進指導者養成講座 受講修了者	人	19	25	A
人権学習学級受講者	人	287	600	B
成果指標のない 事業の自己評価	—			—
評価理由	人権学習学級は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の影響で、講座は3回中止となったものの、毎回参加者が減ることもなく定着をしていた。また、両講座とも今まで扱ったことのないテーマを「映画鑑賞」で学習することができた。これは、コロナ禍において「遠方から講師を招く」以外の学び方として、広い会場で間隔もとりやすく有効な手段だった。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
人権教育推進 指導者養成講座	・行政職員を対象に連続（6回）講座を開催し、講演・ワークショップ・フィールドワークにより差別意識の根絶にむけ指導者を養成する	・24名の参加があり、修了証を受けられることのできた職員（6回中4回以上出席、レポート提出）は19名。	4	4

人権学習学級	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、PTA、企業等を対象に、市報で呼びかけを行い年10回（開催し、講演やワークショップを通じて人権・部落差別問題の解決に向け、正しい理解と認識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で8月・9月・2月が中止となったため、参加者は減少した。部落差別問題をはじめ、アンガーマネージメント等、身近で生活に関わりのあるテーマを交えながら幅広く学習した。 	4	3
--------	---	--	---	---

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
人権教育推進指導者養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も演習の時間を設け、「演習を行うこと」が修了の条件になるように取り組む。 ・指導者を育成するため、講義だけでなく発表や意見交換の機会を作っていく必要がある。 ・受講生が講座を受講する前と後で感じたこと人権・部落差別問題の認識がどう変わったかを引き続き調査するとともに、職員の意識調査をおこない前回調査からの意識の変化を調査し次の取り組みにつなげていく。
人権学習学級	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの参加者は、学校から割当てただけでなく、「希望制」として関心のあるテーマの時には積極的に参加していただき、「人権学習」に対する苦手意識のなくす等の工夫が必要。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育）

＜生涯学習課＞

基本目標	多様な学習活動機会（内容・方法）の充実			
基本施策	2. 住みよい地域や職場をつくるための学習活動			
主要施策	② 地域活動参加の推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R 7目標値	自己評価
PTA、企業等人権教育研修会	人	919	1700	D
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	PTAの人権研修も時期によっては中止となることが多く、全体として停滞してしまった。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
人権教育促進のための講師派遣事業	・各課の関連事業所、市内の企業、学校、公民館、各種団体等が自主的に人権学習会等を実施する場合に講師を派遣し、人権に関する学習機会の拡充を図る。	・今年度は学校からの講師派遣依頼が5回のみで参加者数は514人とどまった。	4	1

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
人権教育促進のための講師派遣	・どのような社会状況であっても人権研修、学習は必要かつ重要であるため、従来の研修方法にとらわれず、様々な教材や手法を活用し、粘り強く継続していく必要がある。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育）

＜生涯学習課＞

基本目標	多様な学習活動機会（内容・方法）の充実			
基本施策	3. 子どもの健全育成に取り組む学習活動			
主要施策	① 家庭教育の充実、地域と学校の連携推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
家庭教育講演会等	回	0	4	D
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	<p>コロナ禍の中、親子で取り組む食育や体操教室など感染リスクの高い教室は中止となった。また、令和3年6月に予定していた講演会についても感染拡大防止のため中止とした。コロナ禍の中ではあったが、家庭教育に関するDVDなどを幼稚園、家庭等に貸出すなど、例年とは違った形での取り組みをすべきであった。</p>			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
家庭教育事業	公立幼稚園PTA連合会と共催で行う「家庭教育講演会」また、各幼稚園や支所で行う「親子食育教室」「子育てサークル親子体操教室」などを予定していたが全て中止した。	乳幼児・児童等それぞれの時期に生活や教育食育を通じ、食べる事、生きる力の基礎について保護者とともに学び養う機会を提供できなかった。	○	○

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
家庭教育	<p>子育て、幼児教育の悩みは各保護者毎に多種多様であり、家庭、地域、学校と家庭教育における保護者ニーズを的確に把握していくことが必要である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症感染拡大状況を考慮しながら、感染防止対策を講じた上で、各種教室、講演会の開催を行っていく。それが困難な場合は、保護者等が安全に安心して取り組める学習方法で学ぶ機会の提供をしていく。また、現在は就学前の子どもをもつ保護者を対象とした事業が中心となっているが、今後は対象範囲を広めた事業展開を図っていく。</p>

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育）

＜生涯学習課＞

基本目標	自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実			
基本施策	4. 自発的学習活動を支えるための条件の整備充実			
主要施策	① 公民館・分館等その他教育施設の整備と活用推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
公民館分館等施設利用者数	人	62,000	120,000	D
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	<p>令和2年度と比較すると公民館施設利用者が△1,000人と減少している。</p> <p>主な要因としては、令和2年度から続く新型コロナウイルスの影響により、地域住民が公民館・分館の利用を自粛したこと、また、食に関する教室やカラオケ教室等感染リスクが高い教室は引き続き中止にしたことである。</p> <p>またここ近年、公民館・分館の利用者が固定化し、高齢化傾向がみられることは確かである。</p> <p>令和2年度に、明治地区で新しい地域コミュニティが発足されたが、他地区においても公民館・分館がそれぞれの地域コミュニティ醸成の核となる施設として活用されるよう、動向を見ている状況である。</p>			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
公民館分館 教室事業	<ul style="list-style-type: none"> 14ある分館・地区館は地域住民のコミュニティの拠点施設であるとともに、各館において教室・講座等を開設し、生涯学習活動の場として活用されている。 <p>（事業費：1,510千円）</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあり、例年より活動が制限されたが、各館で可能な限り様々な講座や教室を開設し、住民の学習活動の支援が行われた。 	1	1
中央公民館 教室事業	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に引き続き、木版画教室を開講。中央公民館は館がないため、分館等を利用。毎月2回、計8回行い、できあがった作品を生涯学習まつりで展示した。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学生から高齢者まで幅広い世代での参加であったことから異年齢間の交流の場となった。 作品を発表する場を設けることで自身をはじめ、教室参加者同士で取組の成果を認め合うことができた。 	2	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
公民館分館 教室事業	分館、地区館が主催する講座・教室が固定化。3年を目途に自主運営に移行するように組織化をお願いしているが、高齢化により主となる方がいないため自立が難しくなっている。若年層にも興味をもってもらえるような魅力ある事業を展開し、今後の指導者になるべく人材育成を行っていくことが課題である。
中央公民館 教室事業	館を持っていないが、参加規模に応じ文化ホールや分館を利用し、中央公民館事業を実施している。今後も住民ニーズを把握し、公民館分館同様、魅力ある事業を展開していくことが課題である。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（生涯学習・社会教育）

<図書館>

基本目標	自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実			
基本施策	4. 自発的学習活動を支えるための条件の整備充実			
主要施策	② 図書館サービスの充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3年度	R7年度目標値	自己評価
市民一人あたりの年間貸出冊数	冊	4.2	7	B
市民登録率	%	30.7	35	B
登録者（市民）一人あたりの貸出冊数	冊	13.7	18	B
成果指標のない 事業の自己評価	—			—
評価理由	<p>・平成29年5月21日のオープン以来、令和4年3月末までに入館者は30万人を突破した。市民の学習の場・憩いの場としてだけでなく、市外からも多くの来館者を迎え入れており図書館を介した市内への人の動線や賑わい創出に貢献している。</p> <p>・令和2年3月に策定した「子ども読書推進計画」を実践するため、学校と連携し令和3年9月から「小学校への団体貸出」をスタートさせた。新たな予算を伴うことなく児童に多くの図書を届けるとともに受け渡しに係る学校図書館司書の負担を軽減することができた。何より学校や学校図書館司書との連携が深められたことが大きな成果であり、団体貸出の実績が令和2年度の4,898冊から7,322冊へと1.5倍に増加したことは評価に値する。</p>			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
図書館サービスの充実	<p>令和2年3月に策定した「子ども読書推進計画」を実践するため、学校と連携し令和3年9月から「小学校への団体貸出」をスタートさせた。</p>	<p>この取り組みは、購入予算の限られた小学校図書館の図書を補い児童に多くの本に親しんでもらうとともに、市立図書館に来ることができない遠隔地の小学校に通う児童にも多くの本を届けることを大きな目標とした。また、学校が団体貸出を利用する場合、市立図書館での本の受け取りや返却に係る労力・時間が負担になっているという課題も併せて解消した。</p> <p>「小学校への団体貸出」では、学校ごとの児童数や学級構成など考慮して市立図書館で本を選び学校まで配送。その時に前回貸し出した本を回収するというサイクルで運用。貸し出し期間は1回あたり2か月間。</p> <p>今年度は、11小学校を各3回巡回し延べ3,405冊を貸し出すことができた。現在の児童書の平均単価が1冊約1,400円なので、金額に換算すると新たな予算を伴わない中で500万円相当分の図書を届けることができた。</p> <p>子供たちや学校現場から寄せられた意見・感想は次のとおり。</p> <p>子どもたちからの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校にない本が読めてうれしかった。 ・市立図書館にはあまり行けないので、学校で読めるのがよかった。 ・教科の勉強についての本があり、よかった。 ・給食や授業の待ち時間で読んでいます。助かるしたくさん読んでいます。 <p>学校や学校図書館司書の皆さんからの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館の本を活用したくても就業時間内に行くことが難しかったので、市立図書館で本を選び学校まで持ってきてくれるのはとても助かります。是非今後も続けてほしいです。 ・図書館が定期的に本を貸してくれることは、とてもありがたい。毎年 200 冊程度の本を新たにしていますが、なかなか子どもたちのニーズにすべて応えることはできません。逆に、それらに当たっていると浅く軽い本ばかりになってしまいます。市立図 	5	5

		<p>書館から違う傾向の本が入ることで子どもたちの選択肢が増えてありがたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級文庫として利用しています。児童が本を手にする機会が増えまし、読書内容の質の向上につながっていると思います。 ・市立図書館が身近に感じられるようになりました。 		
	<p>3ヶ月に1回、荻・久住・直入の図書室に約200冊ずつ新しい図書を貸し出した。また、毎月3図書室を巡回し業務支援を行いながら魅力ある図書室づくりを支援した。</p>	<p>令和3年度中、荻駅交流館図書室で延べ720人・2,247冊、久住図書室で延べ387人・1,197冊、直入図書室で延べ168人・585冊を貸し出した。平成29年の新図書館オープン以来、荻図書室・久住図書室ともに過去最高の貸出人数と冊数を記録した。(直入図書室は過去2番目)</p>	4	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
図書館サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携した「竹田市子ども読書活動推進計画」の推進 市内 11 小学校と連携し、引き続き団体貸出を通じて子どもたちが多くの本に親しめる環境を提供する。 ・荻・久住・直入地域の図書室の業務支援を引き続き行うとともに、3図書室での読み聞かせ等のイベント開催を検討する。 ・令和4年度竹田市学校教育ビジョンに、子どもたちの情報活用能力を育む手段として「市立図書館の利用」が明記された。学校と連携して「調べ学習」の場として市立図書館の利用と、幼児期の市立図書館の積極的な活用を推進する。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（歴史・文化） 〈まちづくり文化財課〉

基本目標	文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実			
基本施策	1. 文化財保存・活用のための組織、仕組みの充実			
主要施策	① 文化財理解のための学習機会の充実と保存・活用の組織づくり			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
岡城跡入場者数	人	41,548	100,000	C
講座等実施回数	回	24	24	A
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	<p>平成 H28 年度の熊本地震により5万人台まで減少した入場者数が、令和元年度に震災前の約 70,000 人にまで回復した岡城跡であったが、その後のコロナ禍によって、休業や各種の制限を余儀なくされた。年間入場者計は、令和2年度 46,117 人、令和3年度 41,548 人と、過去に例を見ない残念な結果となった。</p> <p>この状況下で、支障木伐採による石垣の可視化、登城道の整備、城内の舗装、ARシステムの活用など、収束後に向けての「史跡としての魅力アップ事業」を積み重ねている。</p> <p>また、教育機関や希望する市民等に対する講座やガイド等に、密を避けながら積極的に取り組むほか、歴史文化館においても、感染症対策を徹底しながら、企画展示などに合わせたワークショップ等を再開している。</p>			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
岡城跡整備工事	・城内の通路舗装を実施し、登城客の利便性を高める。	通路舗装2箇年目の実施により、西の丸～膳方方面の通路が改善、観覧者の安全性・利便性が高まった。引き続き、西中仕切り～東中仕切り方面の舗装工事を行う計画としている。	5	5
岡城跡石垣周辺伐木・伐竹	・石垣への被害が予想されるものや景観を悪くしている雑木、雑草の整理を継続的に実施。	R3年度は、前年に行った滑瀬坂の周辺の竹木伐採を継続実施。国道502号線からの南側斜面の眺望改善を行った。	5	5
岡城子どもガイド育成	・小学5・6年生の希望者を対象に岡城のガイドができるよう学習会を開催。	子どもガイドについては、コロナ禍で希望者もおらず開催が出来なかった。近年、希望者が少ない傾向があるため、別の方法による講座等を計画する必要性を確認した。市文化財に対するボラン	4	0

		ティアガイドの育成は大きな課題であるため、今後の方法について再検討する。		
文化財資料活用モデル校事業の実施	・モデル校への文化財展示及び説明会（出前授業）の開催	R3年度は、都野小学校に於いて実施。都野地区を中心に、竹田市内の古墳や城跡などの遺跡について、歴史的背景を踏まえながら授業を実施。また、校内に市内各所の遺跡で出土した遺物を展示し、本物の文化財と身近に触れる機会を設けた。	4	5
岡城清掃の日の開催	・ボランティアによる岡城の清掃活動	「岡城清掃の日」として、九州電力グループと市民協働で石垣清掃を実施。R3年度も過去最高水準である約400名のボランティアの参加を得て、秋の行楽シーズンに向けての清掃を行った。	5	5
岡城跡防災への取り組み	・岡城跡駐車場崖面の状況調査	岡城が阿蘇溶結凝灰岩により形成されていることを踏まえ、これまで観覧ルート等の防護工事を行ってきた。R3年度は駐車場の急崖部の詳細にわたる地質調査を実施。安全確保に努めるため、次年度、防護工事の設計を行う流れとした。	5	5

3. 今後の課題と方向性

主要な事務事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
岡城跡石垣の可視化	平成27年からの支障木伐採・伐開の積み重ねにより、石垣の可視化が、岡城跡の魅力創出に有効であることが確信できた。引き続き、補助財源等も活用しながら、適宜伐開を継続するとともに、既に完了した部分について想定される竹等の繁茂についても美化につとめる。
岡城清掃の日の開催	九州電力と協力し、継続的に行う。市民にも協力を求め、岡城跡の美化に携わっていただくことで、竹田市が誇る史跡を共に守る機運を高める。
岡城跡安全確保対策の推進	令和3年度に地質調査を実施している岡城跡料金所裏崖面について、防災工事へ繋げる設計を行い、地震発生等に備える対策を講じる。
子どもガイド・ボランティアガイドの育成	子どもガイドについては、参加希望者数が少ないため、募集方法・募集年代・内容等について検討が必要。年代を問わず、ガイドができる人材を育成することを目標とする。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（歴史・文化） 〈まちづくり文化財課〉

基本目標	文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実			
基本施策	1. 文化財保存・活用のための組織、仕組みの充実			
主要施策	② 文化財保存活用地域計画の策定・推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	令和2年度からの2箇年計画ではあったが、コロナ禍のため、協議会を開くのが憚られる時期等もあり、進捗が遅れた。			B
評価理由	完成自体は遅れてしまったが、感染症の状況を見計らい、協議会ほかの作業を実施。来年度の作成を見据え、文化庁との打合せを行いながら、整理・作成事務を遂行した。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
計画策定（2か年目）	<ul style="list-style-type: none"> 竹田市文化財保存活用地域計画策定協議会（2回） 竹田市文化財保護調査委員会で内容を審議 アンケート実施による課題整理 文化庁 竹田市現地指導 文化庁へ方針等の打合せ（2回） 	令和2年度に引き続き、市内でボランティアガイドを行っているグループを調査員として、各地域にある文化財の悉皆調査（現況確認調査）を行うと共に、「市史」や調査報告書等の文献から未指定文化財を抽出する作業を実施することで、文化財の把握が進んだ。次年度の完成に向け、関連文化財群などの体系整理方針が固まった。	3	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
文化財保存活用地域計画の策定（認定年度）	<p>R2年度から、文化財の保存・活用に関する将来的なビジョンや具体的な事業計画を定める「文化財保存活用地域計画」の作成を進めている。竹田市文化財保存活用地域計画策定協議会、および竹田市文化財保護調査委員会を開催し、委員の意見を踏まえながら計画の作成を行う。また、庁内会議を開催して関係部局と調整・連携し、文化財の保存と活用に向けて全庁的に支援する仕組みづくりを行う。</p> <p>これまで2カ年で実施した把握調査、作成済の部分の再確認を行い、検討を重ねてきた関連文化財群や文化財保存活用区域、保存と活用に関する措置、防災・防犯、組織体制について等の最終的なとりまとめを行う。</p> <p>夏期にパブリックコメントを経て文化庁へ提出。</p> <p>令和4年12月の計画認定を目指す。</p>

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（歴史・文化）

＜歴史文化館＞

基本目標	文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実			
基本施策	2. 歴史・文化施設の活用の充実			
主要施策	① 歴史文化館の事業の充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R 3	R 7目標値	自己評価
歴史文化館入館者数	人	11,534	10,000	A
研究報告書の発行	冊	6	5	A
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	<p>新型コロナウイルス感染症が拡大している中ではあったが、入館者数については竹田市立歴史資料館時代に比べ増加したといえるとともに、目標値をクリアすることができた。今後、特別展・企画展の内容をさらに充実させリピーターを増やす努力とともに、学校教育との連携を図っていく必要がある。また、展示解説図録や報告書等の発行については、目標に向けて取り組むことができた。今後、展示や調査を着実に進めながら、しっかりと発信していくことが欠かせない。</p>			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
学芸事業	<ul style="list-style-type: none"> 史資料の燻蒸 8/23～25 収蔵庫A燻蒸 市民ギャラリーの活用 市美展、県美展巡回展をはじめ、20種の展示に活用 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒所蔵資料及び寄託資料等の燻蒸は予定通り実施できた。資料整理も進められた。 ⇒開館以降、市民ギャラリーはほぼ途切れることなく活用された。 	4	4
特別展示事業	<ul style="list-style-type: none"> 特別展・企画展の開催 4/2～4/25 「瀧廉太郎 憾の真実」展 5/1～6/20 「化けものを見る 化けものをいせ」展 6/25～7/13 「Japan Gallery」展 7/17～8/22 「草刈樵谷Ⅰ」展 8/28～10/17 「魅惑のくじゅう」展 10/23～12/12 「仿竹田先生」展 12/18～2/6 「Let's タイムトラベル」展 2/12～3/20 「草刈樵谷Ⅱ」展 3/26～3/31 「古庄コレクション」展 講演会 実施なし 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒コロナ禍の中ではあったが、特別展等に市民をはじめ11,534人の来館者があった。 ⇒コロナ禍により講演会を開催することはできなかった。。 	5	4
講座アーカイブス事業	<ul style="list-style-type: none"> 各種講座等の開催 教育現場と連携した学校出前授業・学校来館講座等を開催 ワークショップは、10回開催 研究報告書等の発行 図録・ガイドブック・展示報告を5冊 ガイダンスセンターガイドを1冊 市内遺跡発掘調査報告書を1冊 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒来館した小・中・高校、特別支援学校に展示解説等を実施した。 ⇒様々な年齢層の参加があった。 ⇒「仿竹田先生」展の展示解説図録、「秋山巖」「魅惑のくじゅう」「草刈樵谷」のガイドブック、「Japan Gallery」展報告書、ガイダンスセンターガイド、市内遺跡発掘調査報告書を作成することができた。 	5	5

	・古文書等貴重資料デジタル化整備事業 未撮影史料のデジタル化を推進	⇒旧図書館所蔵資料の一部をデジタル化した。来年度以降も引き続き行う。		
運営管理	・重要文化財公開許可の文化庁へ申請	⇒10/18 付で文化庁長官から重要文化財の公開許可の通知があった。 「仿竹田先生」展において、重要文化財2点を借用・展示	5	5

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
運営管理・学 芸・特別展 示・講座ア ーカイブス事 業	岡城跡や旧城下町、旧竹田荘等を回遊する拠点となる施設として開館した竹田市歴史文化館・由学館の課題として、竹田市の貴重な歴史・文化を次世代に継承していくような教育的普及活動とともに、竹田市の歴史・文化的特色を生かしたまちづくりや地域活性化・観光振興に寄与するような企画や取組も検討しなければならない。 展覧会や調査研究を実施していくには、長期的な事業計画を作成する必要があり、計画にもとづき他の博物館・美術館と借用折衝を行い、連携事業を構築していく必要がある。重要文化財に指定されている美術品の公開実績を積み上げることも欠かせない。また、収蔵資料の再整理のほか、受入れ予定の旧図書館収蔵資料等の未整理品の台帳化等を行い、活用できる状況を作らなければならない。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（歴史と文化）

<生涯学習課>

基本目標	文化芸術の振興			
基本施策	3. 文化・芸術活動の支援、文化活動を通じた交流の拡大			
主要施策	① 市民による文化芸術活動の支援			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
全日本高等学校声楽コンクール 応募者数	人	31	35	A
成果指標のない 事業の自己評価	—			—
評価理由	<p>本年度は、「無観客」「出場関係者の人数制限」「おもてなし交流事業の一部中止」「出場者及び関係者全員に2週間前からの健康チェック・抗原検査」等のコロナ感染防止対策を実施しながら開催した。コロナ禍において、県予選が中止となった地区もあったにもかかわらず31名（28都道府県）の出場者（高校生）が参加。声楽の研鑽の場を提供することができた。</p> <p>本コンクールの特長である、竹田ならではの「おもてなし交流事業を縮小としたが、出場関係者からは「コロナ禍でも開催した本市への感謝の声」を多数いただいた。特に、実行委員である市民の皆さんとともに作曲家「瀧廉太郎」の功績を顕彰し、「文化水準の高いまちづくり」を継続する意識の高揚につながったことが大きい。</p>			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
全日本高等学校声楽コンクール	<p>瀧廉太郎記念音楽祭は作曲家・瀧廉太郎を顕彰する事業として、昭和22年に創設された。廉太郎の偉業を後世に伝えるべく、メイン事業の「全日本高等学校声楽コンクール」は、声楽家を志す高校生の登竜門として毎年開催し、豊かに音楽を学び、育つ場所となることを目指している。</p> <p>本コンクールには、全国の都道府県各代表及び音楽姉妹都市代表が参加。予選・本選を2日間で行う。</p> <p>瀧廉太郎作曲の課題曲及び自由曲を歌唱し、東京藝術大学教授をはじめとする審査員の審査を経て優勝者を決定する。</p> <p>瀧廉太郎賞として第1位、第2位の出場者には、ウィーン留学助成金を贈る。受賞者は、翌年度のコンクールの際に「ウィーン留学報告演奏会」を開催し、その成果を披露する。優勝を決めるのみの他のコンクールとは異なり、声楽家を志す高校生の成長を市民とともに見届ける「教育的なコンクール」を概念としている。</p>	<p>音楽祭メイン事業の「瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール」を開催することにより、竹田市ゆかりの作曲家・瀧廉太郎の偉業を後世に伝えるとともに、芸術文化の薫り高い街づくりを推進、芸術文化振興に取り組む「竹田市」を県内外に情報発信する。</p> <p>また、主催する「瀧廉太郎記念音楽祭実行委員会」には、文化活動を行う団体の代表等が参加している。活動をより充実したものにするとともに、市民や各種団体の連携を促進している。</p>	4	4

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
全日本高等学校声楽コンクール	<p>① 西日本大会から全国大会に規模を拡大して30年が経過。旅費助成、宿泊費助成を廃止しても出場者数は例年の平均値を保っており、本コンクールを目指す全国の高校生にとって憧れの聖地と言われるまでに至った。しかしながら、未出場の県もまだ数県あり、全国大会としての知名度の拡大、出場校の増加に向けて、今後も努力をしていかななくてはならない。</p> <p>② コンクール期間中の入場者数が少ない。全国から集まるレベルの高い声楽の演奏をもっと竹田市民、特に小・中学生の鑑賞の機会を広げていく必要がある。</p> <p>③現在、課題曲の「荒城の月」は山田耕作編曲のものであるが、「瀧廉太郎記念」を銘打つ全国コンクールであり、竹田市としては原曲「荒城の月」も大事に顕彰していくことが求められている。</p>

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（歴史・文化）

<生涯学習課>

基本目標	文化芸術の振興			
基本施策	3. 文化・芸術活動の支援、文化活動を通じた交流の拡大			
主要施策	② 文化芸術によるまちづくりの推進			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
佐藤義美記念館入館者数	人	328	500	B
成果指標のない事業の自己評価				
評価理由	<p>竹田よしみ会と協同で行う事業（童謡祭や作詩コンクール）について、11月3日に童謡祭および作詩コンクール（表彰式）を、感染対策を講じて開催できた。</p> <p>また、感染症の影響により、来館客が減ることとなったが、令和2年度から城下町文化施設共通観覧利用券の販売を開始したことにより、観光客の回遊性の向上を図ることができている。結果として、入館者数については目標値達成に届いていないため、今後も継続した佐藤義美の顕彰活動に取り組む必要がある。</p>			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
義美記念館 運営管理	<p>「第33回さとうよしみ竹田童謡祭」 「第33回佐藤義美賞 竹田童謡作詩コンクール」 日時：令和3年11月3日（水、文化の日） 場所：竹田市総合文化ホール（廉太郎ホール） 「第33回佐藤義美賞竹田童謡作詩コンクール」は竹田市内の学校だけでなく大分県内の小・中・高校等にも応募を呼びかける。表彰式当日は、審査員の児童文学者でもある矢崎節夫氏に入賞者ひとりひとりの作詩に対して、講評をいただいた。 「童謡コンサート」 日時：令和3年11月3日（水） 場所：竹田市総合文化ホール（廉太郎ホール）</p> <p>いずれも、竹田よしみ会と竹田市教育委員会により構成された「佐藤よしみ竹田童謡祭実行委員会」による事業であり、民間団体と行政の協同で、例年、佐藤義美顕彰事業と親子で参加できるイベントを行っている。 （事業費：4,504千円）</p>	<p>童謡祭については、童謡作詩コンクール（表彰式）については感染症対策を講じたうえで実施した。 校長会・広報誌等で周知し、応募数は令和2年度の400点から663点に増加した。引き続き、市内の小・中学校等への周知徹底に努め、県内の小・中学校等への周知も行っていく。 童謡コンサートは「TAKETA 室内オーケストラ九州」を招き、童謡を演奏していただいた。 施設の環境整備については、定期的な清掃・草刈作業等を行ったことで、安全で快適な記念館運営につながった。</p>	4	3

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
佐藤義美記念館運営管理	<p>昨年6月から販売を開始した「城下町文化施設共通観覧利用券」により、来館者数の増加の効果はある程度あったと思われる。今後も周知・販売を継続し、来館者数増加へ繋げていく。 また、市内の学校への社会見学の呼びかけを積極的に行い、まずは地元である竹田市の児童に佐藤義美の功績を知り、作品に触れる機会をつくり、詩や童話・童謡に関心を持ってもらう。 施設管理については、記念館館内設備の状況等の確認、必要に応じた維持補修等、安全で快適な記念館の運営を心がける。</p>

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（スポーツ）

＜生涯学習課＞

基本目標	スポーツを通じた人づくりと地域づくり			
基本施策	1. 生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備			
主要施策	① 総合型地域スポーツクラブ等の推進・支援			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
竹田スポレク教室数		24教室	29教室	B
成果指標のない事業の自己評価	—			—
評価理由	竹田スポーツ・レクリエーションクラブは誰もがスポーツに親しむことができる社会を実現するために、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、だれでもできる生涯スポーツ活動の場として提供している。参加人数は2年度（27教室・407人→令和3年度（24教室・362人）と前年度に比較し教室及び会員数は減少している。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
竹田スポーツ・レクリエーションクラブ（総合型地域スポーツクラブ）	市民の生涯スポーツの総合的な活動を支援する竹田スポーツ・レクリエーションクラブに補助金を支出している(年間890千円)。各種スポーツ24教室の運営のほか、他クラブとの交流事業やゴルフ大会やグラウンドゴルフ大会等も実施しているが令和3年度は令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴いいずれの事業も中止となっている。	教室及び会員数は人口減少や高齢化に伴い減少しているが、種目の多様性、年代・年齢の多様性などいつでも・どこでも・だれでも楽しむことのできるスポーツコミュニティとして成果を上げている。しかし、令和3年度は令和2年度に引き続きノルディックウォーキング交流会をはじめ、グラウンドゴルフや親子3世代レクリエーションはコロナ禍で中止となった。そのような状況下でもスポレクを通じて地元でスポーツができる喜びや感謝の気持ちを失わず活動することができた。	4	3

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
竹田スポーツ・レクリエーションクラブ	クラブ運営に不可欠なクラブマネジャーの人件費分を市が負担しているが、各教室の指導者はボランティアで事業実施しているところがほとんどであり、会員登録料等も含め自主財源確保の取り組みが求められている。

	<p>クラブの更なる発展を進めるうえで、種目・教室数の増加を図ることが少子高齢化の中で市民がスポーツに親しむうえで課題となると思われる。また、地域のスポーツ振興を担う竹田市スポーツ推進委員との連携を図っていく。</p> <p>また、中学校部活動の休日の地域移行に伴い、スポーツ・レクリエーションクラブで担える競技が有るのか、またその環境を整えるための指導者育成等今後検討が必要である。</p>
--	--

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（スポーツ）

＜生涯学習課＞

基本目標	スポーツを通じた人づくりと地域づくり			
基本施策	1. 生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備			
主要施策	② 市民スポーツを支える環境整備			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	—	—	—	—
成果指標のない事業の自己評価	<p>必要に応じて各種体育施設の整備を実施している。R3 年度は総合運動公園陸上競技場レーン改修及びテニスコート人工芝張替え・照明改修、また、直入 B&G 海洋センター体育館照明 LED 化を実施。</p>			A
評価理由	<p>各種体育施設の整備を順次実施している。総合運動公園陸上競技場レーンはレーンの摩耗や硬化が激しくランナーの故障に繋がりがかねない状況であったが改修により弾力性の高い素材となり、合宿や練習に適した施設となった。また、テニスコートの人工芝は、周囲の植栽帯から伸びるカイツカイブキの根がコート内に張り込み凹凸が発生していた。また、照明は雨のたびに漏電し点灯しない事象が頻発、さらに水銀灯は 2021 年 12 月末日をもって製造が禁止され今後の安定的な修繕は厳しい為照明配管を改修し LED とした。この改修により凹凸もなく明るい環境で競技を行え競技力向上に繋がる。その他、直入 B&G 体育館 LED 化、艇庫の雨漏り修繕、荻小グラウンドは防球ネットの修繕を行った。</p>			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取 り 組 み 内 容			
	事業概要	成 果	効果	達成
総合運動公園陸上競技場改修	総合運動公園陸上競技場レーン改修工事を行った。	陸上競技場は、ジュニアから一般まで幅広く利用しており、練習や合宿に適した施設となり競技力の向上に繋がる。	5	5
総合運動公園テニスコート人工芝張替え及び照明改修	総合運動公園テニスコートの人工芝張替え及び照明設備改修工事を行った。	植栽の根による凹凸をが解消され、照明が切れる心配もなくなり安心して競技することができ競技力向上に繋がる。	5	5

直入 B&G 海洋センター 体育館照明 LED化	直入 B&G 海洋センター体育館の照明 LED 化工事を行った。	LED化にすることにより、電気料の 削減ができ、安定した照明で安心して 活動できる環境整備を行った。	5	5
-----------------------------------	-------------------------------------	--	---	---

3. 今後の課題と方向性

主要な事務 事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
体育施設改 修	老朽化が進んでいる体育施設について、競技者の安全性を確保するためにも早期に竹田市公共施設整備計画に搭載するよう取り組むとともに、利用の少ない施設や改修に多大な費用が掛かる施設については竹田市公共施設総合管理計画に基づき利用者等と協議の上取り壊しをしていきたい。

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（スポーツ）

＜生涯学習課＞

基本目標	スポーツを通じた人づくりと地域づくり			
基本施策	1. 生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備			
主要施策	③ 各種大会、教室等の充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
体育施設利用者数	人	98,475	130,000	A
成果指標のない 事業の自己評価	—			—
評価理由	<p>体育施設の利用者数については、施設改修により利用できない期間があった為利用者が減少した。 （利用制限期間：陸上競技場（R3.7～R4.2）テニスコート（R3.10～R4.2） 施設改修後は高校生等の利用が復活、また合宿の増加で利用者数の回復が見込まれる。今後も多種多様なニーズに対応し、イベントを開催するなど、更なる体育施設の利活用を図っていく必要がある。</p>			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対応を含む）

主要な事務 事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
第75回竹 田市駅伝競 走大会	駅伝を通じて長距離選手の育成・強化並びに 市民の健康増進及び体力の向上を図るととも に、市内各地区及び地域の競技者相互の親睦・ 交流を深める為開催した。	新型コロナウイルス感染症感染拡大 により各種大会が中止となる中、感染 対策を講じ、R2年度に続き稲葉ダム 周回コースで交通規制を行い、無観客 レースとし18チーム参加した。	5	5

スポーツ医学研修講座	「ジュニアアスリートのためのトータルコンディショニング」と題して、カラダの成長・自分のカラダ状態を知ること・カラダ能力チェックを行い、自分で自分のカラダの状態を確認することについて学ぶ研修会を開催した。	理学療法士を招き、児童・保護者を対象に研修会を行い、親子で成長に伴うカラダの変化について学ぶ良い機会となった。	5	5
------------	---	---	---	---

3. 今後の課題と方向性

主要な事務事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）			
各種スポーツ大会等	人口の減少や高齢化により、競技人口は減少する傾向にある。今後、スポーツに触れ合う機会の提供を研究しながら、競技人口の増加を体育（スポーツ）協会や各競技部と連携をとり大会等を実施していきたい。県内一周駅伝は終了となり競技への意欲が心配されるが、改修した施設をフルに活用し、県民スポーツ大会等での各競技の底上げを目指していきたい。			

竹田市教育行政点検評価シート

1. 竹田市長期総合教育計画における位置づけ（スポーツ）

<生涯学習課>

基本目標	スポーツを通じた人づくりと地域づくり			
基本施策	1. 市民が生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備			
主要施策	④ 安心・安全な運動の充実			
成果指標に対する自己評価				
成果指標の名称	単位	R3	R7目標値	自己評価
—	人	—	—	
成果指標のない事業の自己評価	新しい生活様式の中で、新型コロナウイルス感染対策を講じながら、各種イベントを安心安全に実施した。			A
評価理由	新型コロナウイルス感染の収束の見通しが立たない中、適切に事前の判断・調整を行い、講じ得る最善の対策を施し、大会実施を可能とした。			

2. 令和3年度の主な取組み（前年度の課題対処を含む）

主要な事務事業名称	取組み内容			
	事業概要	成果	効果	達成
第28回B&G直入カップバレーボール大会	市内中学生のバレーボール競技の普及及び技術向上の機会として、近隣市の中学生との交流、競技力向上を目的として実施。	新型コロナウイルス感染防止のため、2週間前からの体調チェック、当日の検温、定期的な換気、競技外でのマスクの着用、無観客で実施。	5	5

第 49 回竹田市少年少女駅伝ロードレース大会	市内小学校5・6年生を対象に竹田市総合運動公園内を周回するロードレースを実施。	新型コロナウイルス感染防止のため、2週間前からの体調チェック、当日の検温、競技外でのマスクの着用、選手と観戦者が交わらないようエリアを確保し実施。	5	5
-------------------------	---	---	---	---

3. 今後の課題と方向性

主要な事務事業名称	施策の課題と展開方針（外部評価後の再調整（ ）を含む）
各種スポーツイベント	新しい生活様式の中で、各種イベントを中止するのではなく、感染対策を講じながら安全に実施できる方法を検討し実施する。

《外部評価委員による評価意見》

—有識者（学識経験者）による評価及び自己評価に対する意見—

大分大学名誉教授

山崎 清男 委員

1. 教育委員会の運営・活動について

「竹田市教育行政に関する点検評価 報告書（令和3年度対象）」は、「竹田市長期総合教育計画（令和3年度～令和7年度）」にのっとり、教育事務事業を対象とした「点検評価」である。竹田市長期総合教育計画には学校教育に関しては9つの基本施策、生涯学習・社会教育に関しては4つの基本施策、歴史・文化に関しては3つの基本施策、スポーツに関しては1つの基本施策が策定されている。これらの基本施策のもと、44の主要施策にもとづき教育行政活動が展開されている。

竹田市教育委員会は、教育長と4名の教育委員で構成されている。教育委員会の19の主な職務権限にもとづき、教育委員会の活動が行われている。教育委員会会議の開催状況は定例12回、臨時2回の計14回開催され、議題も多岐にわたり、教育行政の展開に関し教育委員が積極的にかかわっている姿が読み取れる。その他、教育委員会会議以外の活動に関しても多様な活動がみられる。学校訪問や各種研修会への参加等を通し、教育委員としての職能成長に積極的に取り組む姿は評価すべきである。特筆すべきは、「教育委員会会議においても、事務局が提示する資料のみならず、積極的に学校を訪問し保護者の意見も聴取したうえで独自の学習会を開催し、積極的な発言や提言を行うなど充実した審議が行われ」ていることである。このような姿勢は、竹田市の教育活動・教育行政活動の発展にとって極めて重要であるといえよう。市長部局と教育委員会部局の協働・連携は、竹田市の教育の発展にとっては必要不可欠である。それゆえ「総合教育会議」を複数回開催するなど、積極的活用が望まれる。

竹田市教育委員会の基本的役割は、いうまでもなく竹田市民の教育活動の保障、提供される教育活動の質保証である。このような観点から、教育委員会活動は積極的に取り組まれているといえよう。教育委員会活動の「自己評価」をふまえ、さらなる活動の発展を期待する。

2. 教育委員会実施施策（事務事業）について

○学校教育

竹田市長期総合教育計画（令和3年度～令和7年度）によると、竹田市の教育の基本理念は「『過去を誇り 現在を信じ 未来に憧れる』人づくり・まちづくり」（竹田市教育推進大綱）である。教育を社会が活力をもって発展するための重要な手段、人々の社会参加を保障するための基盤と位置づけている。この教育の基本理念の実現をめざして学校教育、生涯学習・社会教育、歴史・文化、スポーツの各分野にわたり目標達成に向けた各種施策が展開されている。

学校教育に関してみてみよう。学校教育の基本目標は「夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開」と「安全・安心な教育環境の整備と充実」である。この2つの基本目標のもとに9つの基本施策が策定され、その基本施策をふまえて28の主要施策が展開されている。これらの施策の達成状況の評価が31項目にわたって行われている。学校教育の評価結果はA評価14項目（45.2%）、B評価13項目（41.9%）、C評価4項目（12.9%）である。昨年度と比較してみるとA評価が増え、B評価が減少している。A評価が増えていること自体は取組の成果として評価されるべきであるが、C評価が増えていることは少し気にかかる。C評価項目は「協働的な学び」と「学力調査の結果」、「教室LED照明整備率」そして「不登校児童生徒数」である。

不登校の発生数は小・中学校とともに県下値及び全国値と比べ、若干多いのでC評価となっている。しかし教育委員会や学校が、何ら対策をとっていないわけではない。様々な対策を取りつつ、不登校問題に向き合っている姿は評価すべきである。不登校問題は単に「数値」のみで評価すべきではなく、社会変化が激しい中、多様な価値観を持った児童生徒の実態をふまえて、換言するなら教育制度上の問題や方策等をふまえて、評価基準を作成することが重要になると思われる。

また協働的な学びは「コロナ禍」において、十分な取組（教育活動）が展開できなかった結果でもあり、取組がなされなかったわけではない。学力調査に関しては、受験教科の学力調査の結果が、全国平均を上回る教科数が小学校ゼロ教科（令和7年度目標値は全国平均以上の教科数が11教科中8教科以上）、中学校5教科（令和7年度目標値は全国平均以上の教科数が10教科中10教科）であり、令和7年度の目標値を大きく下回っているからである。教員研修等を通して教員の授業改善を推進し、授業力の向上を図り、「わかる授業」、「学ぶ楽しさ」などを創りだす教員の力量形成が極めて重要になってくると思われる。C評価項目の原因分析を丁寧に行うことにより、問題点を明確化し改善・改革することが求められる。なお「竹田郷土学」がすべての学校の教育課程に位置づけられ、カリキュラムマネジメントを念頭に置いた教育課程経営の中で展開されていることは評価すべきである。

かつて教員の仕事（労働時間）は、無定量的にとらえられた時代もあったが、今日そのような考え方は通用しない。改めて教員の職務（仕事）内容を精査し、教員以外のスタッフ等へ振り分けなどを行い、教員が授業等の教育活動に積極的に取り組むことができるような働き方の確立も早急の課題である。また学校の適正規模・適正配置も、竹田市教育委員会に課せられた大きな課題である。児童生徒のよりよい教育環境を創造するためにも、地域住民とともに協働的に取り組むことが求められる。

○生涯学習・社会教育

生涯学習・社会教育に関する基本目標は、「多様な学習活動機会（内容・方法）の充実」と「自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実」である。この基本目標のもとに4つの基本施策が策定され、その施策のもとに7つの主要施策が展開されている。これらの施策の評価状況はA評価1項目（10.0%）、B評価5項目（50.0%）、C評価1項目（10.0%）、D評価3項目（30.0%）である。評価項目数が多くないので、評価の割合ばかりにとられる必要はないと思われるが、D評価が30.0%と多いのは、このD評価項目が「PTA、企業等人権教育研修会」と「家庭教育講演会等」、「公民館分館等施設利用者数」であり、これらの項目は「コロナ禍」の影響により制限をうけ、取組（活動）を中止せざるを得なくなった結果であるといえよう。したがって生涯学習・社会教育の取組が展開されていないと考えるべきではない。ただ今後このような事態も十分考えられるので、不測の事態に直面した場合の取組の在り方を危機管理的側面から考えておくことも必要になると思われる。

一般的に生涯学習・社会教育の取組に関する評価基準は、行事や催しの開催回数や参加人数をベースに考える傾向がみられる。もちろん開催回数や参加人数は重要な評価基準になりうるが、市民にとって必要な学習課題や必要な行事・催しは何か、そこでの取組の深まりや満足度などを考慮した「質的」視点での評価基準・方法等が十分に考えられなければならないといえよう。生涯学習・社会教育の取組は、竹田市民の学習活動を活発化するうえでの重要施策であることは間違いないと思われる。

○歴史と文化

歴史と文化に関する基本目標は、「文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実」と「文化芸術の振興」である。この基本目標のもとに3つの基本施策が策定され、さらに5つの主要施策がある。この施策のもとで7つの取組が展開されているが、A評価4項目（57.1%）、B評価2項目（28.6%）、C評価1項目（14.3%）である。B

評価とC評価に関しては「佐藤義美記念館入館者数」や「岡城跡入場者数」など、コロナ禍の影響をうけるものであり、本来の取組や活動が十分に展開されなかった結果である。

そのような中で、取組実績を上げA評価されている項目もみられる。このA評価項目の取組からヒントを得ながら、コロナ禍等不測の事態における効果的取組の在り方を検討することも重要事項である。歴史と文化の創造は、「文化都市竹田」を支える基礎・基盤である。情報社会の進展が著しい今日、情報機器等を活用した歴史や文化の発信はコロナ禍に対応する方策になるといえよう。今後、情報機器等の活用による文化財の活用や文化芸術の振興が十分に考えられねばならないと思われる。

○スポーツ

スポーツの基本目標は、「スポーツを通じた人づくりと地域づくり」である。1つの基本施策のもとに、4つの主要施策が展開されている。評価は4項目でありA評価3項目（75.0%）、B評価1項目（25.0%）である。B評価項目は「竹田スポレク教室数」である。教室数と参加会員数が、昨年度に比べ減少している結果としてB評価である。コロナ禍の影響も考えられるが、多様な手段でスポーツに関する情報入手（スポーツの種類やそれらを行う場所等）が可能な今日、どのようなスポレク教室が市民のニーズを満たしうるか等を探求し、市民のニーズに合ったスポレク教室の実施等を考えることも必要になるとと思われる。

昨年度に引き続きコロナ禍での教育行政の「点検評価」であるが、本報告書は丁寧にまとめられている。全体的に見てA評価（42.3%）、B評価（40.4%）、C評価（11.5%）、D評価（0.6%）である。A評価とB評価を合わせると82.7%であり、竹田市の教育行政施策の展開は一定の成果を上げているといえよう。またC評価やD評価に関してはコロナ禍の影響を受けているものが多く、そのような不測の事態の中では取組が十分に展開されえなかったことも推測できる。したがって、C評価やD評価がみられる項目に関し、竹田市教育委員会が積極的に取り組まなかったと考えるべきではない。しかしながら、B評価項目やC評価項目さらにD評価項目に関してはその取組過程と結果をきちんと分析し、今後の取組や展開に生かすことが求められる。

元南部小学校校長

田北 敏彦 委員

1. 教育委員会の運営・活動について

定例会・臨時会（12回・2回）計14回の教育委員会会議、48件の議題を審議しています。平均すると月に4議題の審議を行っています。教育費予算要求に関すること、竹田市学習端末機器等貸与要綱の制定に関すること、竹田市立小中学校の今後の配置に関すること、竹田市立直入幼稚園の今後について、令和4年度使用教科用図書の新採択について、竹田市学校給食費徴収条例の一部を改正する条例を制定することなど、多岐にわたり審議されたことに対し、心から敬意を表します。

その他教育委員会会議以外でも学校訪問の実施5日間で21カ所の訪問を実施しています。コロナ禍で感染対策を施し、今年度は時間を十分に取って、竹田市内各学校（園）の子どもの様子や校長のリーダーシップの基に経営される学校経営ビジョンの理解・確認、施設の修繕箇所の要望を聞いたり、これまで引き継がれてきた、直接現場を見る体制を継続・実施しています。学校のことを理解するために、日頃から各教育委員自ら自己研鑽し、力量を高めていることにも心から評価できます。

年1回開催の総合教育会議においては、竹田市立小中学校の今後の配置（統合の方向性）についての協議を行い、該当校保護者や地域住民に丁寧に説明していくことを確認しています。報告事項として竹田市のいじめ、不登校、子どもの貧困等の状況、学校教育の現状について学校教育課から報告され、竹田市として教育の課題を話し合われたことは、これからどのように教育を進めていくか共通理解が深まったと感じます。今後は回数を増やすなり、さらなる会議の進展を期待します。

コロナ禍で研修の機会は少なくなったとはいえ、教育委員が委嘱を受けている各種委員の会議等に参加する上で、基本になる人権意識を高揚する研修に自主的に参加している姿に感謝致します。

教育委員会審議の内容、新たに総合教育会議の内容もホームページに公開されているとはいえ、多くの市民にもっと知ってもらうためにも、課題に記されているように、市民が自然に見たり聞いたりできるケーブルテレビでの啓発の検討が必要ではないかと考えます。

2. 教育委員会実施施策（事務事業）について

◆学校教育 学校教育課、教育総務課

基本目標：学校教育課「夢に向かって挑戦し自己実現を図ろうとする力を育む教育の展開」の5つの基本施策の中で特に評価のCと評価された主要施策やA、B評価の気になる主要施策について、評価者として記述してみます。

まず、全体を通して、指標が設定されていない主要施策が多く、担当者がまとめた評価文を私が評価して良いものか私自身不安は残りますが、思ったことや感じたことを評価したいと思います。

○『確かな学力の育成』について、

主要施策「学力調査の活用」C評価。

竹田市独自に12月に実施されている竹田市標準学力調査の結果からR7年度全国平均以上が小学校8/11教科、中学校10/10教科と目標とされている中、R3年度小学校0/11教科、中学校5/10教科と示されています。小学校の学力の定着が必要です。教科部会で先生方は定着していない単元や課題を共有していると書かれていますが、その課題を各学校へどのような方法で共有化を図っているのか、基礎学力の定着に向けて再構築してもらいたいものです。

○『特別支援教育の充実』について、

主要施策「特別支援教育体制の充実」A評価。

「個別の指導計画」の作成率を指標として、R7年度目標値小学校100%、中学校100%としています。R3年度小学校100%、中学校100%と示されています。竹田市特別支援ネットワーク会議の継続と充実の素晴らしさや教育相談会やケース会議の充実から、このような結果に繋がったと思います。今後は新たな指標を作成し、さらなる特別支援教育の充実に向けて精進してもらいたいものです。

●基本目標；教育総務課・学校教育課「安全・安心な教育環境の確保」の4つの基本施策の中で特に評価のCと評価された主要施策やA、B評価の気になる主要施策について、評価者として記述してみます。

○『学びを支える教育環境の整備・充実』について、

主要施策「適正な学校規模への対応」B評価。

令和2年度に実施した「今後の学校のあり方」のアンケート結果を基に小学校3校、中学校3校の統合の方向性について提案しています。久住中学校は竹田中学校へR5年度統合へ、菅生小学校はR7年度南部小学校へ統合が決定しています。残りの4校は統合検討委員会を立ち上げることはできなかったと記されています。そのことがB評価に値するかは難しいところです。教育委員会と関係学校保護者、地域住民との話し合いを大切にしながら継続的に今まで通り話を進めることが必要になります。さらなる努力と継続を願います。

○『いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実』について、

主要施策「不登校対策の充実」C評価。

1000人当たり不登校の発生数を指標としている。R7年度目標値小学校4/1000人、中学校30/1000人としています。R3年度は小学校11.3/1000人、中学校47.5/1000人と示されています。人数的には、多いと思いますが、学校教育課の取組は、活発であり、真摯に子どもに向き合った実践を行っていることは理解しています。しかも、不登校に対応できる「サフラン」での入室者が多いのも安心のひとつです。今後は、不登校の家庭や子どもに対応できるスクールソーシャルワーカーや福祉と連携を強化しつつも、今後は記述されているように竹田だけにとどまらず、民間のフリースクール等の連携も必要になります。

○『学校の働き方改革の推進と教師の健康の保持・増進』について、

主要施策「教師の健康保持・増進」A評価。

①ストレスチェック受診率を指標とし、R7年度目標値100%に対してR3年度100%。②健康診断再検査受診率を指標とし、R7年度目標値100%に対してR3年度100%と示しています。すでにR3年度に2つの指標とも100%ですので、指標を変えることが必要だと思います。付け加えて、①が100%だったとしてもメンタルダウンを発生し、病気休養している先生方もいるようです。働き方改革とともに教師の健康保持に繋がる取組（例えば、養護の先生と職員の健康相談）を組織化してもらいたいものです。

◆生涯学習・社会教育 生涯学習課

基本目標：生涯学習課「多様な学習活動機会（内容・方法）の充実」については、3つの基本施策の中で特に評価のC・Dと評価された主要施策や気になる主要施策について、評価者として記述してみます。

○『心豊かな暮らしをつくるための学習活動』について、

主要施策「成人・高齢者の学習活動の推進・支援」C評価。

指標は高齢者大学開催回 R7年度目標値8回に対し、R3年度は5回でした。少ない回数的重要因素として、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が何回か中止となりました。また、感染症の影響で受講生の家での引きこもり状態が続いたこと、学習意欲が低下したことなどが要因にあげられます。今後は高齢化がますます続く竹田市においては、年齢にふさわしい社会的能力を養う場・発揮できる場として必要な機会です。より多くの高齢者が参加できるよう、久住学級（7回実施）のようにコンサートの誘致等や魅力ある学習内容を担当者が考え実施することが必要です。

○『住みよい地域や職場をつくるための学習活動』について、

主要施策「地域活動参加の推進」D評価。

指標は、PTA、企業等人権教育研修会参加者人数 R7年度目標値1700人に対し、R3年度は919人でした。研修会そのものが新型コロナウイルス感染拡大により、開催されなかったことが要因になります。今後はコロナ禍での研修のあり方（zoom研修）や事業所（企業）関係への人権研修会の開催を要請する事が必要です。

○『子どもの健全育成に取り組む学習活動』について、

主要施策「家庭教育の充実、地域と学校の連携推進」D評価。

指標は、家庭教育講演会の回数 R7年度目標値4回に対し、R3年度は0回でした。親子で取り組む食育、体操教室など感染リスクの高い教室は中止にしました。年2回の講演会も中止にしました。今後は、担当者も記載していますが、家庭教育に関するDVDなどを貸し出ししたりして実施する方向性を生み出すようにしてもらいたい。

●基本目標：生涯学習課・図書館「自発的学習活動を支えるための条件整備（人的・物的）の充実」については、基本施策1つの図書館運営について、評価者として記述してみます。

○『自発的学習活動を支えるための条件の整備充実』について、

主要施策「図書館サービスの充実」B評価。（3つの指標とも）

指標は、①市民一人当たりの年間貸出冊数 R7年度目標値7冊に対し、R3年度は4.2冊でした。②市民登録者率 R7年度目標値35%に対し、R3年度は30.7%でした。③登録者一人当たりの貸出冊数 R7年度目標値18冊に対し、R3年度は13.7冊でした。R3年度は特に「子ども読書推進計画」を実践するため、小学校への団体貸し出しをスタートしました。その結果、団体貸し出しの実績が令和2年度の4898冊から7322冊へと1.5倍に増加したことは素晴らしいことです。図書館は市民の学習の場・憩いの場としてだけでなく、市外からも多く来館者を迎え入れており、ますますの運営体制の継続・進展を期待します。

◆歴史・文化 まちづくり文化財課、歴史文化館

基本目標：まちづくり文化財課、歴史文化館「文化財の保存・活用と歴史・文化施設の充実」については、2つの基本施策の中で特に評価のCと評価された主要施策や気になる主要施策について、評価者として記述してみます。

○『文化財の保存・活用のための組織、仕組みの充実』について、

主要施策「文化財理解のための学習機会の充実と保存・活用の組織づくり」C評価。

指標は岡城跡入場者数 R7年度目標値100,000人に対し、R3年度は41,548人でした。その要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響のため減少したと考えられます。そのことは仕方ないと思われませんが、その中で、岡城跡整備工事や岡城跡石垣周辺伐木、伐竹整備や恒例となっています。九州電力グループと市民約400人が参加した「岡城清掃の日」等を行っています。今後も入場者増に向けての魅力ある取組みを期待しています。

○『歴史、文化施設の活用の充実』について、

主要施策「歴史文化館の事業の充実」A評価。

指標は、①歴史文化館入館者数 R7年度目標値10,000人に対し、R3年度は11,534人でした。②研究報告書の発行 R7年度目標値5冊に対し、R3年度は6冊でした。すばらしい実績です。今後は、①②も目標値を変えることが必要です。また、歴史文化館の担当者が課題として列記しています、竹田市の歴史・文化的特色を生かしたまちづくりを検討しているようですので、例えば、観光客などの一日の見学場所などの流れを記録するなどして、どんな施設を回っているか把握し、まちづくりの参考にさせていただきたいと期待しています。

◆スポーツ 生涯学習課

基本目標：「スポーツを通じた人づくりと地域づくり」については、1つの基本施策の中で特に気になる主要施策について、評価者として記述してみます。

○『生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備』について、

主要施策「総合型地域スポーツクラブ等の推進・支援」B評価。

指標は、竹田スポレク教室数 R7年度目標値29教室に対し、R3年度は24教室でした。（詳細はR2年度27教室：407人 → R3年度24教室：362人）

今後、教室については種目・教室数の増加を図ることが必要になってきます。気になる点は、教室数は増えたとしても、会員の固定化現象が見え、さらなる会員数の増加に向けた啓発が必要になってきます。また、中学校部活動の休日の地域移行に伴い、スポレククラブを支えるための指導者養成などの機会が必要となります。お願い致します。

—令和3年度竹田市教育行政点検・評価についてのまとめ—

本報告書の点検・評価対象年度となる令和3年度は、前年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの教育施策について延期や中止を余儀なくされる状況にありました。しかし、それぞれの分野において、十分な感染対策を施した代替措置を模索するとともに、より効果的・効率的に各事業実施に取り組んできたところです。

教育委員会の運営・活動については、毎月の定例会において、委員の皆様には事業の内容や経過等の説明をし、進捗管理を行ってまいりました。コロナ禍で諸行事の制約を受ける中で、学校訪問を実施し教育現場の実態把握に努めました。教育委員は、それぞれに委嘱されている各種委員の会議へ出席、また積極的に研修会等に参加され、教育委員会の審議に反映してまいりました。一方で、外部評価委員の指摘にもあるとおり、総合教育会議の開催が1回にとどまり、市長部局との情報共有が不十分であったと思われまいます。今後は、会議の在り方を検証し、市長部局とのさらなる連携・協働を図ってまいります。

学校教育については、特にC評価となった施策についての内容分析・検証を丁寧に行う必要があります。基本施策「確かな学力の育成」において、学力調査の結果を指標としていますが、小学生の学力定着が大きな課題として示されました。外部評価委員からも、各学校との課題共有化について助言をいただいております。引き続き基礎学力の定着を目指して、課題解決に取り組んでまいります。また、「いじめ・不登校・子どもの貧困等の対策の充実」の中で、不登校対策に関連して、指標の数値だけの判断に留まらず、多様な価値観を持つ生徒の実態を踏まえることを示唆されております。受け皿となる施設「サフラン」の充実と合わせ、福祉部門との連携をさらに強化して、対策の充実に努めてまいります。

生涯学習・社会教育については、D評価となる施策が3割を占めることとなりました。①地域活動参加の推進、②家庭教育の充実、地域と学校の連携推進、③公民館・分館等その他教育施設の整備と活用推進、いずれもコロナ禍の状況下で、活動が十分に行えなかったことに起因するもので、各指標に大きく及びませんでした。この項目では、「学習活動機会の充実」や「学習活動を支える条件整備の充実」を基本目標としていることから、多くの方が集う機会設定が大きな評価加算の要因となります。コロナ禍収束の見通しが立たない現状を鑑みて、不測の事態を想定した次善の策が行えるよう、常に準備をしていきたいと思っております。

歴史・文化については、コロナ禍に伴い岡城跡や佐藤義美記念館の来場者が低迷した中であって、令和2年10月に新築リニューアルした歴史文化館・由学館が入館者目標値をクリアすることができました。展示企画の内容充実や情報発信の在り方が、この好結果に繋がったものと分析しております。この手法を他の施策にも応用するとともに、市内の各観光施設とさらなる連携をし、地域の活性化に繋げていけるよう取り組んでまいります。

スポーツについては、施設的环境整備や大会・教室の充実ができて一方、会員や利用者の固定化、減少が浮き彫りとなっています。基本施策に掲げる「生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成と環境整備」が達成できるよう、市民のニーズを把握しながら、幅広い年齢層にアピールするような啓発活動を進め、指導者の養成とともに底辺拡大を図ってまいりたいと考えています。

今回、点検・評価を行った主要施策の基準となる「竹田市長期総合教育計画」は、令和3年3月、令和3年度から令和7年度の5か年を計画期間として新たに策定されました。この5か年の初年度として、施策体系ごとに掲げられた基本目標達成に向けて、重点的に取り組むべき主要施策を実施してまいりました。今後も、自己評価の反省を踏まえ、また外部評価委員の先生方の助言をいただきながら、PDCAサイクルの観点を念頭に置いてそれぞれの取組を継続してまいります。